

# 森林防疫ニュース

編集■発行／全国森林病虫獣害防除協会／東京都千代田区永田町1の14国立国会図書館内 1962. 8. 1 (月刊)



トドマツの腐朽れ病をおこすモミサルノコシカケ *Phellinus hartigii* の子実体  
 撮影／青島清雄

トドマツなどの *Abies* 属の生立木の辺材を腐らせるもので、形成層が死んで、菌に侵された部分だけが生長を示さない。このために樹幹部がくぼんで溝状を呈する。本邦に広く見られる病害である。

青島氏は林業試験場保護部菌類研究室勤務。写真は 1953 年 8 月、北海道の上川営林署層雲峡経営区で撮影。

## 目 次

### 解 説

輸入木材とその害虫 (3) ..... 梅谷 献二 / 田口 俊郎 ..... 2

### 観 察

ヨーロッパアカマツの葉さび病 ..... 佐保 春芳 ..... 5

### 雑 録

カラマツ先枯病被害状況中間報告とその対策 ..... 出川 和甫 ..... 8

長野県下におけるカラマツ先枯病騒動記 ..... 浜 武 人 ..... 9

東西南北 ..... 7

一森林保護学者の欧米 100 日間見聞記 (6) ..... 今関 六也 ..... 10

情 報 被 害 速 報 ..... 17

刊 行 物 紹 介 ..... 永 井 進 ..... 16

解 説

輸入木材とその害虫 (3)

梅谷 献二 / 田口 俊郎

横浜植物防疫所調査課・農学博士

同・農林技官

(iv) 特殊材の害虫

わが国が輸入している特殊材は、前号でふれたように、輸入量は少ないが極めて多くの樹種に及び、その主なものだけでも、第4表に示すように広範な種類が含まれている。

記の各地域別輸入材の害虫群中ではもっとも可能性が薄い部類であるといえよう。

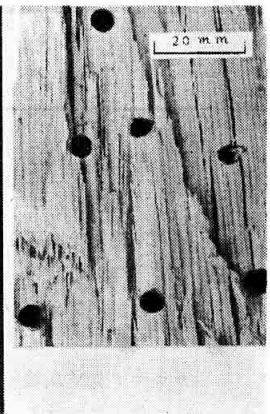
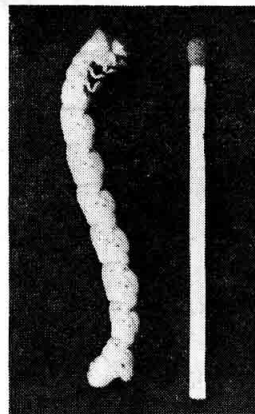
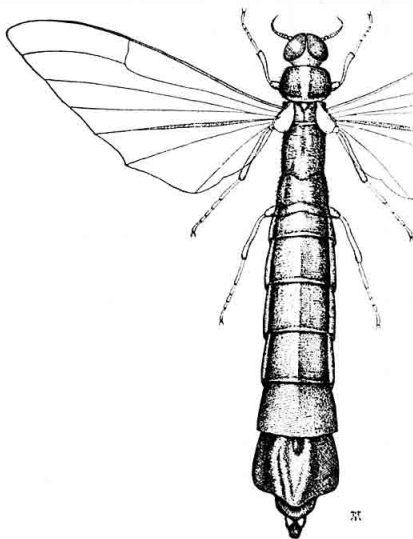
ここで現在までに知り得た種類の中から、2～3の代表種をあげて解説しようと思う。

第20図は最近横浜港においてコロンビア産のCativo Log(樹種不明)から発見されたブラジル

第4表 特殊材の主な樹種

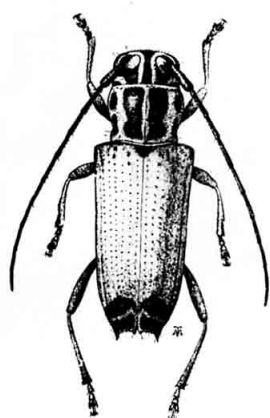
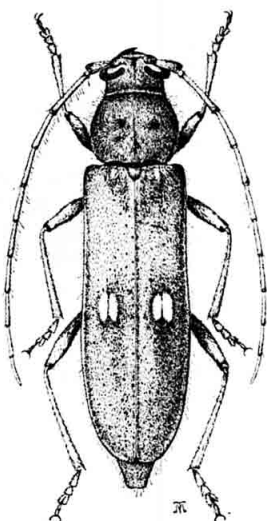
俗 称	樹 種	主な用途	主な原産地
Cotton wood	<i>Populus deltoides</i>	マッチのじく	U. S. A.
Maple	<i>Acer spp.</i>	家具用材	
Prina vera	<i>Cybistax donnell-smithii</i>	"	
Walnut	<i>Juglans nigra</i>	"	Australia
Silky oak	<i>Cardwellia sublimis</i>	"	
Queensland walnut	<i>Endiandra palmerstomii</i>	"	Ecuador
Balsa wood	<i>Ochroma pyramidale</i>	航 究 機 材	
Lignum vitae	<i>Guaiacum officinale</i>	じくうけ	Dominica
Bosho log	<i>Cinnamomum camphora</i>	家具用材	
Kiri	<i>Paulownia tomentosa</i>	"	Taiwan
Box wood	<i>Buxus spp.</i>	印 具 材	
Ebony wood	<i>Diospyros ebenum</i>	家具用材	Thai
Kapee kaokwai	<i>Dalbergia culerate</i>	"	
Sandalwood	<i>Santalum album</i>	"	India
Teak	<i>Tectona grandis</i>	"	

現在までにこれらの材から発見された害虫類は、前記の各材種と比較していちじるしく少なく、わずかに20種ならずで、他の材種のごとくキクイムシ類が特に多いという傾向も見られない(前号第4図参照)。また、輸出国の大部分が中南米やアフリカであるため、大形種でも種名不詳のものが大部分の状態である。しかし、これらの特殊材害虫の本邦への侵入土着の問題は材の原産地の大部分がわが国と生物地理学的関係のうすい地帯であり、既発見の害虫類も量質ともに少なく、かつわが国と共通の種類はない点などから、前



第21図 Atractocerus brasiliensis の終齢幼虫(左)とその食痕

第20図 Atractocerus brasiliensis LEP. et SERV.

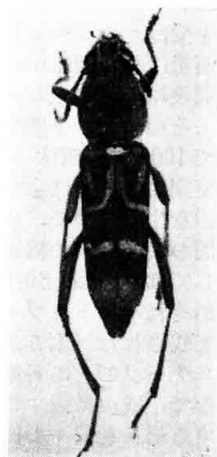
第22図 *Glenea cantor* F.第23図 *Gnatholea eburifera* TOMSON

コバネツツシンクイ *Atractocerus brasiliensis* で、少数の成虫とともに、多数の幼虫が採集された。この属のものは世界から17種が知られ、全甲虫類のうちもっとも古代昆虫の特性をそなえている原始的一群として有名で、比較的珍らしい昆虫である。本種は体長26mm内外の大形種で、木材検疫で発見されたこの属のものとして唯一の種である。第21図に示すように幼虫も特異な形態を持ち、堅材の中心部に向かって真直な孔道を掘る。

第22図はタイ国産のアオギリ科の1種 *Sterculia companulote* の材から発見されたフトカミキリの1種 *Glenea cantor* で、中国南部、タイ、カンボジア、フィリッピン（ルソン島）などに分布する。本種は体長8~13mm、淡褐色で図に示すような黒紋を有する美しい種で、これは横浜港において発見された多数の幼虫、蛹から飼育によって羽化させたものの一つである。

第23図は同様にタイ国産のムラサキタガヤサン *Dalbergia culerate* の材から発見されたインドフタホシカミキリ *Gnatholea eburifera* である。本種は体長15~26mmの褐色のカミキリで幼虫は材部深く穿孔食害する。

第24図は輸入ツゲ材 (*Buxaceae* sp.) からしば

第24図 *Xylotrechus quadripes* CHEVROLAT

しば発見されているトラカミキリの1種 *Xylotrechus quadripes* で、材によってはかなりの個体の寄生が認められる。体長は10~17mm、体は黒色で図に示すような灰白色斑を有する。検疫においてはツゲ材以外からは発見されていないが、本種の分布地である東南アジア一帯においては、“White borer”と呼ばれ、コーヒーの害虫として知られているという (STEBBING, 1914 による)。

以上のほかドミニカの *Lignum vitae* (*Guaiacum officinale*) から *Cyllene* 属のカミキリムシが3種、ムツボシタマムシの1種 *Chrysobothris* sp. を始め特に中南米材からかなりの数の大形種が発見されているが、いずれも種名を決定するに至っていない。

以上検疫で発見される特殊材の害虫の一般的特徴をあげれば次のごとくである。

- a. 他の材種と比較してキクイムシ類以外の甲虫が多い。
- b. わが国との共通種は認められない。
- c. わが国に土着、害虫化するおそれのある種を具体的に指摘することはできない。

### III 輸入木材害虫の侵入防止対策

以上述べてきたような輸入木材の害虫駆除に、植物防疫所がこうじてきた対策経過は、国内森林防疫とも関係が深いので、本小文のむすびとして簡単に述べてみたいと思う。

将来はこれらの害虫のわが国への侵入土着の可能性を十分検討した上で、重要な種類について集中的に侵入防止対策をはかるのが労力の点からも望ましいことはもちろんであるが、諸外国の害虫に対する研究がまだ進んでいない現段階においては、害虫が発見された輸入木材をすべて不合格材として扱い、薬剤処理によって殺虫した上であらためて輸入を許可する方法をとっている。

これまでの対策でもっとも問題となったのは、材の表面に薬剤撒布することによって樹皮下または材部深く穿孔した害虫を死滅させることのできる有力な殺虫剤の選定であった。従来、国内の森林における殺虫剤の利用は、伐倒した丸太に穿孔虫が新たに侵入加害するのを防止することに重点がおかれ、この目的のために好適な薬剤も2~3あり、一部はすでに市販もされている。しかし前述のごとく、繁殖中の虫をほぼ完全に殺虫することは技術的により困難で、未だ決定的なものがなく、当所における試験もこのような殺虫剤の発見に主力がおかれた。

昭和25年(1950)木材検疫が実施されるようになった当時は、輸入材を30日以上水没浸漬するか、12時間以上煮沸する方法が用いられた。この

方法は害虫の散いつ防止と、駆除に効果をあげたが、前者は検疫に長時日を要し、後者は多大の経費を要する欠点があり、薬剤による殺虫方法の発見が急務となった。

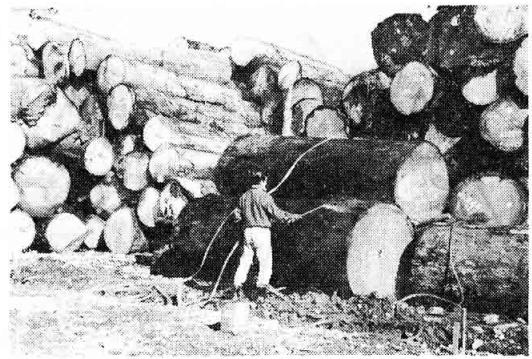
そこで、昭和26、27年度に当時林業用として使用され始めていたDDT、 $\gamma$ -BHC、PCPおよび数種の有機燐剤を用い、前橋営林局草津営林署の協力を得て、同署管内においてカラマツ材に寄生したマツノオオクイムシ *Ips cembrae* を対象として野外試験を実施した。なお、それよりさき各種溶剤の木材浸透性について基礎実験を行なった結果、ケロシンが材の乾湿にかかわらず、よく浸透することが判明したので、この野外試験の供試薬剤としては、主として同溶剤による油剤を用いた。この実験の結果は供試虫が少なく、十分な成果をみるに至らなかったが、パラチオンやホリド



第25図 薬剤による木材害虫の殺虫試験(群馬県草津)

ールなどの有機燐剤は、樹皮表面へ撒布した場合ほとんど効果が認められず、 $\gamma$ -BHCとPCPの混合油剤区が70%前後の殺虫率を示した。しかしこの場合効果は主として外気と直接通じている母孔内の成虫に対するもので、薬剤が直接樹皮を浸透したことを確認するには至らなかった。しかし一応この結果に基づいて26年度末から、水中浸漬中の輸入材の浮上部分に対して0.2%の $\gamma$ -BHC(またはDDT)と1.0%PCPの混合油剤を、7日目ごとに3回撒布するように法規が改正された。

次いで34年(1959)夏季に上記と同一試験地においてDDT、 $\gamma$ -BHCおよび新たにアルドリン、D-D、エチレンジプロマイド(EDB)などに加え同様の試験を実施した。この結果は、供試材数が少なく、統計処理によって精度を確認するに至らなかったが $\gamma$ -BHC 1.5%、D-D 2.5%、および $\gamma$ -BHC 0.25%+EDB 0.6%の各区が一応80%以上の殺虫率を示した。



第26図 虫害南洋材に対する薬剤散布(北島技官原図)

引き続き同年11月横浜港に水中貯木中の北洋材に寄生したクイムシの1種 *Ips* sp. 成虫を対象として、上記薬剤および森林害虫防除用としてすでに販売されていた各種薬剤を加えて野外試験を実施した。この結果、EDB 5%およびEDB 2.5%+ $\gamma$ -BHC 1.25%の両区のみ完全殺虫という結果を示し、それ以外の薬剤(殺虫率50%の $\gamma$ -BHC 1.5%区を最高としていずれも40%以下)との間に有意な差を生じた。

しかしこれは越冬中の虫を対象として低温下で行なった特殊実験例であるので、さらにこの効果を確認するため、翌35年夏季に前述の群馬県下のカラマツ林において再度野外試験を実施した。

供試薬剤はEDBと $\gamma$ -BHCおよびその混合剤を主体とし、昨今欧米において穿孔虫に対する効果が認められているオルソジクロールベンゼン(ODB)、トリクロールベンゼン(TCB)、殺菌力も有するジニトロオルソクレゾール(DNOC)や殺線虫剤などを新たに加え18種類を用いた。一薬剤についてマツノオオクイムシの寄生を受けたカラマツの2m丸太5本を任意に供試し薬量は材表面1m<sup>2</sup>当たり300ccを撒布して1週間後に剥皮の上殺虫率を調査した。(第25図)。

その結果、一薬剤当たり各ステージの虫について100~300個体の材料が得られた。検定の結果、薬剤によっては虫のステージ別の殺虫効果に有意差を生じたので、成虫、幼虫、蛹別に各薬剤相互間の殺虫効果の検定を行なったところ、成虫に対しては6種類、幼虫は12種類、蛹は6種類の薬剤がそれぞれトップクラスの効果を示したものとして残された(第5表)。もちろんこの場合、虫の各ステージごとに各薬剤の相対的な効果を吟味したので、成虫に対するランキングと、幼虫、蛹に対するそれを同一の観点から比較することはできない。しかしクイムシ類は、木材検疫において単一のステージだけが、発見されることは少ないので、特定のステージのみに効果を有する薬剤は実

森林防疫ニュース

第5表 マツノオオケクイムシに対する数種薬剤の殺虫効果

薬剤名	各Stageの平均殺虫率	特に効果の認められたStageとその殺虫率			
		成	虫	蛹	幼虫
1 HE-C	92%	○99%	○77%	○100%	○86%
2 EDB 2.5%+BHC 0.25%	87	○91	○85	○74	○91
3 HE-V	87	○95	○76	○65	○81
4 EDB 1.25%+BHC 0.25%	74	○76	○65	○74	○83
5 DNOC 3%	82*	○34	○45**	○74	○85
6 EDB 5%	81*	○88	○28**	○74	○85
7 DBCP 2.5%	67	○42	○75	○57	○75
8 ANB 5%	51	○44	○59	○66	○75
9 DNOC 1%	61	○64	○45	○66	○68
10 BHC 1%	61	○70	○46	○66	○68
11 EDB 2.5%	60	○63	○47	○66	○68
12 ODB 20%	41	○48	○21	○56	○66
無処理区	4	1	5	6	

\*蛹の殺虫率を除外してある。 \*\*調査個体数50以下。  
○印はその Stage の中で殺虫効果に有意差なく有効だったもの。

用的には問題とならない。結局第5表に示すように、虫のすべてのステージに対してトップクラスの効果を示した4種類の薬剤が、実用的に有力なものとして残された。これらは、いずれも EDB と  $\gamma$ -BHC の混合剤またはそれを主剤としたものであり(HE-Cは EDB 2.5%・ $\gamma$ -BHC 0.25%・ダイアジノン 0.3%の混合油剤, HE-V はダイアジノンの代わりに DDVP 0.3%を加えたもの), 単剤で使用した場合よりはるかに高い殺虫率を示した。一方酒井(1961)によって詳細な実験がなされた結果, これらの効果が明らかに強力な連合作用に基づくことも証明され, この混合剤が穿孔虫用の殺虫剤として特にすぐれていることを推定するに至った。

この実験によって昨年(1961)から前述の法規

に, 虫害輸入材に対して EDB 2.5%および BHC  $\gamma$ -2.5% を含む混合油剤を使用することが追加され現在に至っている(第26図)。

また, 輸入材に対するくん蒸による殺虫試験も上記諸実験と平行して行なわれ, 一部の特殊材や陸上貯木中の南洋材, パルプ材に対してはすでに実施されているが, これらについては川本登氏によってすでに本紙上(Vol. 11, No. 6)で述べられているので省略する。

以上述べた薬剤効果は, 完全殺虫という点ではまだ十分なものではなく, 今後に残された問題も少なくない。しかし, わが国の門戸において常にこれら外来の森林害虫を監視するとともに, 他方においては, 国内森林の整備を行なうことが外来害虫の侵入防止に対して相乗的な効果を現わすことは当然で, 国内の造林, 育種のような仕事がこの面でも重要な意義を持つことを信じる次第である。

末尾ながら本小文を草するに当たって資料のご提供をいただいた林業試験場保護部森本桂博士, 同野淵輝技官ならびに当所佐藤覚東京支所長, 川崎倫一調査課長, 伊藤信一, 北島克己両技官に対して厚くお礼申し上げる次第である。(完)

解 説

ヨーロッパアカマツの葉さび病

佐 保 春 芳

東京大学北海道演習林/森林病理研究室

1. 序

若いマツ属の造林地に発生する病害の一つに葉さび病がある。本誌上では伊藤(Vol. 2, No. 24), 千葉(Vol. 6, No. 7; Vol. 7, No. 3; Vol. 8, No. 9), 佐保(Vol. 9, No. 2; Vol. 11, No. 4)が病原菌, 被害状況等を解説している。

東京大学北海道演習林内には各種の外国樹種が植栽されている。外国樹種中, その量が最も多いのはストロブマツ(*Pinus strobus* L.)である。またヨーロッパアカマツ(*Pinus sylvestris* L.)も試験的に植栽されている。ヨーロッパアカマツの若い造林地に多い病害としてあげられるのは, 「葉さび病」と「ナラタケ病」である。

2. 被害状況

1959年ごろから苗畑において養苗しているヨーロッパアカマツに葉さび病が発生し始めた。病徴は浜(Vol. 9, No. 3)がくわしく説明しているアカマツの葉さび病とほぼ同様である。いちじるしい特徴は, 2年葉には精子器とさび胞子嚢が認められるが, 1年葉には精子器のみしか認められないことである。罹病数は30~50%に及び, 年によって多少の変化はあるが, 相当数の苗にさび胞子嚢を見出すことができた。なお, 苗畑の近くの樹木園にはヒロハノキハダがあり, 毎年ひどくさび菌におかされていることも観察されていた。

若い造林地においても同様に2年葉にさび胞子嚢を, 1年葉に精子器のみを見出すのであって, 苗畑の場合と同様であった。東京大学北海道演習林以外でも1960, 1961年に恵庭営林署管内で同様な葉さび病を発見している。これら造林地内には

若いヒロハノキハダが点在しており、7～8月ごろには葉裏が黄色になるだけでなく葉全体が黄色になって、遠望しても変色の状況がはっきりしている程度にひどくさび菌におかされていた。

### 3. 接種試験

ヒロハノキハダ葉裏のさび菌 (*Coleosporium* 属) と、近くにあるヨーロッパアカマツの葉のさび孢子囊との関係をはっきりさせるための接種試験が、1960年8月に行なわれた。接種方法は、ヨーロッパアカマツの針葉にさび菌の冬孢子堆を多数もっているヒロハノキハダをまきつける方法がとられた。

1960年11月にヨーロッパアカマツの接種部に赤紫色の若い精子器が形成された。1961年4月にはこの精子器は少しふくらみ赤褐色となり、内部には精子も多数認められて完熟していると思われた。しかし、ストロブマツの葉さび病菌 (同じ *Coleosporium* 属菌の他の種類) は精子器が完熟した年の5～6月にさび孢子囊を形成するのであるが、ヨーロ



1960年8月の小生子接種によって、1962年5月にヨーロッパアカマツの針葉上に生じたさび孢子囊

ロッパアカマツの葉さび病菌は精子器が完熟しているにもかかわらず、1961年はそのままの状態ですら孢子を形成せず経過し、1962年5月にはいってさび孢子囊を形成し始めた。従って北海道においては、冬孢子堆より生ずる小生子がヨーロッパアカマツの針葉に侵入してからさび孢子形成までに、2カ年近くの月日が必要とすることが明らかとなった。寄主と菌の形態上から本菌を *Coleosporium phellodendri* Kom. であると同定した。前述のごとく1年葉には精子器のみを、2年葉には精子器とさび孢子囊を見出す理由がこの小生子接種試験で明らかとなった。

なお、1961年には、ヨーロッパアカマツ針葉上のさび孢子をヒロハノキハダに接種するさび孢子接種試験が行なわれ、陽性の結果を得ている。

### 4. むすび

以上で接種試験を経てヨーロッパアカマツの葉さび病菌は *Coleosporium phellodendri* Kom. であることが明らかとなった。東京大学北海道演習林内の観察によれば、日本のアカマツよりヨーロッパアカマツのほうが、この葉さび病菌に対して感受性が高いようである。

罹病樹は針葉が小型になっていることが認められるので、葉さび病菌は苗木に相当な影響を与えていると考えられる。葉さび病によって樹勢がおとろえれば、他の病虫害の誘因となる可能性がある。

このような葉さび病を防除するには、造林地内の中間寄主植物を除去することが望ましく、通常いわれているごとく適期の下刈り等の手入れが重要である。また、ヨーロッパアカマツの若い造林地内はもちろん、まわりにもキハダを侵入させないように注意することが大切である。

特に1962年5月にはいって東京大学北海道演習林第76林班内の1955年植栽のヨーロッパアカマツは、除伐のおくれた関係上、造林木にかぶさるよう若いヒロハノキハダが生育しているのが発見された。このヨーロッパアカマツ林は一般的にいってひどく葉さび病菌におかされていたが、ヒロハノキハダがかぶさっている部分では、1年生葉にも少数ながらさび孢子囊を見出すことができた。従って、ごく初期の小生子による感染を受けた場合にも、翌年の初夏にさび孢子を形成することもあるようである。この場合、2年葉と3年葉にもおびただしいさび孢子囊が認められた。北海道において、いつ小生子感染が行なわれた場合は翌年にさび孢子囊を形成するかは、今後の研究課題である。

(アピール)

現場で 病虫害にとりくんでおられる 読者のみなさん 暑いなか  
ごくろうさまです ひとつの仕事  
が かたづいたら そのまとめ  
一事業の記録—を ぜひ お寄せ  
ください みずみずしい あなたの  
の原稿が 本誌を飾るでしょう

東京都千代田区霞ヶ関2-1  
林野庁内/森林防疫ニュース編集事務局

## 雑録

## 東 西 南 北

キイロコキクイムシの天敵寄生  
蜂ハツトリキクイコマユが発生

1. 発生場所 大阪府泉南郡岬町  
西畑

1. 発見年月日 昭和37年1月11日  
上記の場所で枯死したクロマツ6  
~7年生の樹幹枝を1月11日に調査  
したところ、キイロコキクイムシ  
による被害と判明した。そのさい、多くの蛹室が、白い小さいマユに占められているのに気づき、針先でこのマユを掻き破り、顕微鏡で調べたところ、蜂のサナギらしいものを認めた。

1月18日、林務課室内（スチーム暖房）で上記のマユのうち、1頭が羽化するのを目撃した。

2月21日、さらに現地よりとりよせた被害木からこの蜂を採取し、九州大学、安松京三先生に送って、同定をお願いしたところ、*Ecphyllus hattorii* KÔNO et WATANABE（ハツトリキクイコマユ）であり、キイロコキクイムシに寄生することがわかっているむねご教示いただいた。

今回観察したところをまとめると次のようである。

a. スチーム暖房の室内の観察では1月下旬から3月のはじめまでの間に羽化がみられた。

b. 樹皮のうすい部分に比較的多いようで直径1.5~2.5cmの樹幹において最も多く寄生していた。

c. 寄生率は、かなり高率で、キイロコキクイムシの蛹室中、マユのあるものの割合は、部分的には90%程度のところもあった。

なお、上記の場所におけるキイロコキクイムシの被害は、面積約10aクロマツ6~7年生約30本が集団枯死しており、キイロコキクイムシ以外の穿孔虫はほとんど見られない。

（大阪府林務課S.P. 柴田富男）

注：本種に関する文献として次のものがあるので、参考のために記します。

井上元則：松喰虫防除精説P.68(1949) 朝倉書店

KÔNO, Hiromichi and Chihisa Watanabe: A new braconid-parasite of the bark-boring beetles, *Cryphalus piceus* Eggers, *Ins. Mats.*, 10(1+2): 67-69 (1935)

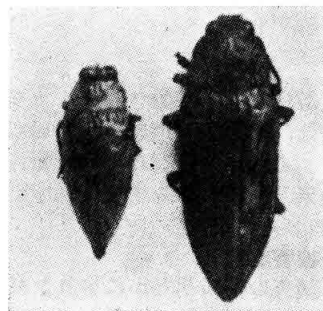
佐田一至：兵庫県下に於て激害を加えつつある松樹の穿孔虫類とその駆除予防に関する考察、兵庫県林業試験場(1942)

（文献部分は林試昆虫科野淵輝氏）

## 防除協会総会ひらかる

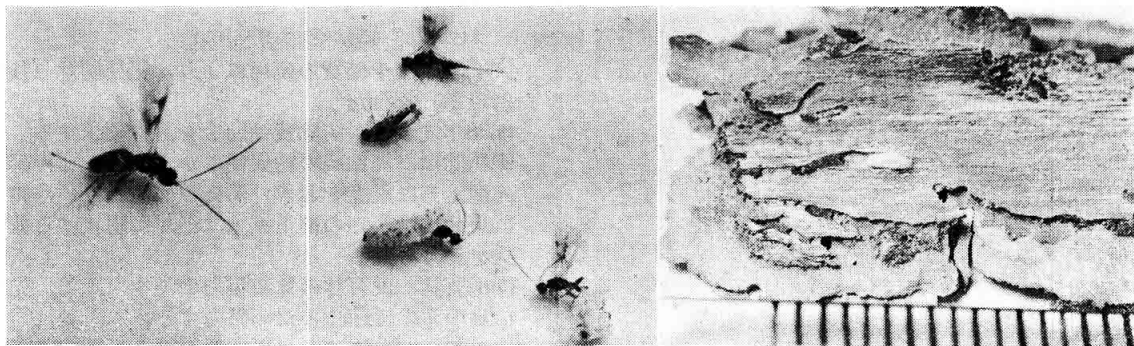
全国森林病虫獣害防除協会の第八回総会は7月25日衆議院第一議員会館で開かれ、37年度の事業計画と収支予算などを決定。席上、北海道森林防除協会から「カラマツ先枯病の防除対策の確立」について緊急動議

が出され、満場一致でこれを採決、即日農林省、国会その他に陳情を行なうことを決めた。このあと、山階芳麿博士の「アメリカにおける鳥類の保護」の記念講演があり、盛会裡に閉会した。

カンボジア産木材から  
珍しいタマムシ

昭和36年5月23日広島入港の広修丸にて輸入されたカンボジア産のPhbick材（家具用）が沈木のため岸壁近くの土場に595本(1,097m<sup>2</sup>)が積み重ねられた。これには多くのキイロコキクイムシ、タマムシが発見された。このタマムシは、樹皮をはぐと材部の表面に幅広い（広い所は20mmに及ぶ）孔道を作って食害している。孔道の中には蛹室を営んで蛹化しているし、すでに羽化しているものもあった。次々と飛び立つ危険があるので至急くん蒸した。

国立科学博物館の黒沢良彦技官によれば、このタマムシは *Asemochrysis Vitalisi* Bourgoïn 1922で、体長22~26mm インドシナ半島に分布し、わが国ではこれまで他港での発見を聞かない珍しい種類であるよし。（写真左がそのタマムシ、右はウバタマムシ）-<神戸植物防疫情報No.284>



成虫・体長（頭端より体の後端まで）  
2mm内外、体は黒褐色

羽化前後のマユと蜂

樹皮内面に付着するマユ（中央の白いもの）

*Ecphyllus hattorii* KÔNO et WATANABE（ハツトリキクイコマユ）

森林防疫ニュース

カラマツ先枯病の被害状況

中間報告とその防除対策

37年度から開始された、カラマツ先枯病実態調査は、目下関係道県、営林局において着々実施中であるが、6月23日現在で報告された被害の集計結果と、これに対する林野庁の防除対策の概要をお知らせする。

被害状況

調査の結果明らかにされた被害面積は、別表のとおり、民有林 40,602ha、国有林 11,800ha、計 52,402ha である。

民有林における被害分布の最南端は、福島県では栃木県に接する南会津郡田島町と、海岸部の双葉郡川内村附近、山形県では、東置賜郡宮内町、および新潟県境に近い東田川郡朝日村附近となり、本病の南進する危険性は多分にある。

また、カラマツ先枯病の年次別被害の消長をみると、昭和31年(14ha)、32年(280ha)、33年(277ha) 34年(365ha)、35年(9,612ha)、一注：以上

各年には推定を含む—36年(52,402ha…今回調査結果)で、先枯病はここ1両年の間に異常なまんえんを示している。

防除対策

昨年夏いらい、被害のあった道県から、数次にわたって請願書(北海道議会)、要望意見書(同)、陳情書(北海道、岩手県、長野県)、要望(北海道、全国森林病虫獣害防除協会)などが提出されてきている。

林野庁においても昨年6月、指導部長名をもって、林地ならびに苗畑等における応急的処置の大綱を通達、さらに本年3月には、林野庁長官名により、カラマツの養苗にあたって先枯病の発生を未然に防止し、罹病苗木を絶対に造林地に持ち込ませないため、苗木検査の徹底、移動の制限等の具体的対策を、関係方面に通達している。

先枯病の防除方法については、目下試験研究機関が、基礎事項の調査研究と併行して、薬剤、防除技術など対策の確立を鋭意進めている。しかし早急に防除措置を講じない限り、先枯病は無限にまん延拡大し、現存する全国約55万haのカラマツ造林地が壊滅的な打撃を受けることは必至の状況にある。このような緊急性に基づき、当面つぎの方針で防除対策を推進することとしている。

- (1)カラマツ先枯病を<森林病虫害等防除法>に定める「森林病虫害等」に指定(政令による法定化)、強力な対策ができるようにする。✓

からまつ先枯病被害発生状況

Table with columns: 県別(局), 被害程度別面積(ha) (激害, 中害, 微害, 計), 市町村 (全市町村数, 先枯病発生市町村数, 同割合), 造林地(ha) (全人工造林面積, 内からまつ面積, からまつ造林割合), 被林全害にか対する割合, 備考

注：1. 前橋局管内に約50ha発生？目下調査中 国有林関係は業務課資料による。

- ✓(2)37年度予備費の使用により、緊急防除(伐倒焼却)を行なう。
- (3)38年度予算に防除費補助金を計上要求する。
- (4)防除は、先枯病の特異性にかんがみ、まん延先端地方に重点をおき、悉皆駆除を行ない、特に東北地区からの南下拡大は絶対に阻止する態勢をとる。
- (5)国有林、民有林の林政協力の実をあげて、先枯病のまん延防止のため努力する。

なお、(2)と(3)は、目下関係方面と折衝中である。(林野庁造林保護課/出川和市)



## 長野県下における

## カラマツ先枯病騒動記

浜 武 人

林業試験場/木曾分場

カラマツの先枯病が現在、北海道および東北地方において激害をあたえつつあることは周知のとおりである。カラマツの中心郷土として著名な長野県には、幸いに本病の発生は知られていない。しかし先枯病菌の諸性質からみて、どこの地方のカラマツにも、発病の可能性があるということから、昭和36年6月開催された本場保護部業務報告会の席上、長野県下の発生有無について調査するよう要請があった。

木曾分場で調査を開始すると同時に、広く長野県内21営林署および17地方事務所林務課に協力を求め、先枯病類似被害を発見のつど送付願ひ、この解析にあたった。この結果、6月より12月までの間に分場で9点、各地から23点の、つごう32点を得ることができ、これらについて病原菌の分離培養を実施してきたが、先枯病菌は全く検出されなかった。この調査は引続き今後も実施の予定なので、得られた結果を一応中間報告のつもりで関係方面に連絡してほっとしていた矢先に、次にのべるような重大な事件が発生した。

(イ) 事件の発生：このおこりは昭和37年1月19日長野県庁林務部治山課種苗係長安田技師からの電話で始まった。松本市の在東筑摩郡波田村の一種苗業者が昨年暮れから正月にかけ、前もって手続きすることになっている種苗の移入承認願ひを地方事務所に届けることなく内密に岩手県の盛岡市周辺から約17万本もの大量の苗木を入れた事実が発覚し(先方の業者も未承認)、現物をおさえたからすぐ調査に出向いて欲しいという依頼である。驚いた私はこのことを室長、分場長に直ちにお話しすると同時に、移出先が明かであったので、東北支場の佐藤室長に苗畑の状況を速達で依頼し、一方本場の伊藤樹病科長、北海道支場の小野室長らにも内報し協力を依頼した。

(ロ) 現地調査：さてこの翌日許しを得て安田技師、林業指導所の西沢技師らとこの苗木の調査にいったところ、さらに驚くべきことが明らかとなってきた。業者はカラマツ先枯病のおそろしさを充分知っていながらあえて密移入していた

のである。

調査結果移入された苗木の約 $\frac{1}{3}$ が波田村近在3カ所に保管され、約 $\frac{1}{3}$ はすでに上田市周辺の造林者約130名に配布されていることがわかったが、波田村に保管中の苗木より帰場後先枯病菌を検出した。こうしているうちに佐藤室長より返事をいただくことができ、それによると岩手の移出苗畑も「周辺の防風林に先枯病被害が沢山みられるきわめて危険な苗畑である」ことを御教示いただいた。

(ハ) 緊急対策：この移入事件は県より直ちに長野県内の長野営林局をはじめ十指にのぼる林業関係機関全部に連絡がとられたが、事の重要性から2月6日、長野県庁において移入苗木に関する対策協議会がこれらの機関会部の参集により開催された。木曾分場から列席した梅原分場長は会の冒頭、本病の侵入はいかなる理由があろうとも絶対に許してはならないことを力説され、私もまたおそろしい先枯病の解説にあたった。各機関よりも全部の焼却あるいは隔離栽培などの積極的意見が出されたが、最終的に長野県の行政指導によって苗木の全部を業者の責任において先方に返品していただくよう勧告し、もしこれがいれられない場合はまたその時対策を協議する、ということで散会した。

(ニ) 返品：だが、一口に返品といっても、こちらにきてから混合されたものを含め約30万本にもものぼる苗を返させるということは、法的根拠が全くないだけに、この説得は困難をきわめ、この涉に身を挺してあたった安田技師の胸中は察するにあまりがあった。先枯病のおそろしさを各戸毎にじゅんじゅんと説いてあるかれた同氏の御努力には頭の下がる思いであった。

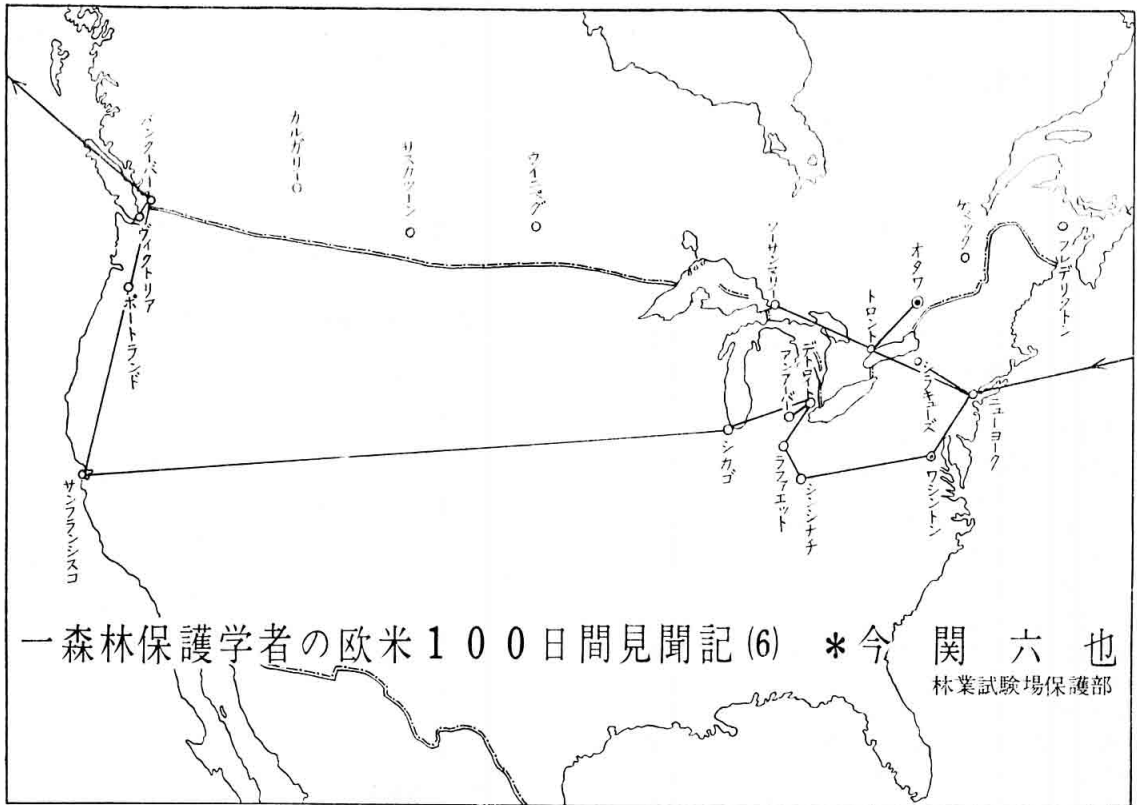
こうした関係者の、血のにじむような努力の結果、幸に説得が成功し、移入された苗は全部返品してくれることに話しがまとまり、3月上旬～中旬にかけ各地にばらまかれた移入苗は関係者立会のもと、1本のこらず回収の上荷作りされ3月19日の貨車積み最期としてこれらの一切を終了することができた。なお荷作り発送後の落葉落枝は全部焼却し、配布先は念のため全部記録に止めていただいた。

×

×

×

×



13. アメリカ大陸に渡る

11月1日早朝、コペンハーゲンをたち、午後1時半ころ、ニューヨークについた。時差の関係で約10時間の旅である。東京をでてから約2カ月目になる。これから12月13日までの間に、カナダで約2週間、アメリカに30日間を過ごすのである。主な訪問先をあげると(かっこ内は日付け)

アメリカ：ニューヨーク (XI, 1~7), シラキューズ (XI, 7~9), ワシントン (XI, 18~25) シンシナチ (XI, 25~26), インディアナ州ラファイエット (XI, 27~29), ミシガン大学 (XI, 28~XII, 3), サンフランシスコ, バークレー (XII, 4~7), ポートランド (XII, 7~9)。

カナダ：オタワ (XI, 10~15), ソー・サン・マリー (XI, 16~17), トロント (XI, 18), バンクーバーとヴィクトリア (XII, 9~13—ここから帰国)

以下、順序は逆になるが、カナダ印象記からのべる。

14. カナダで

北米大陸に渡ってから9日目の11月9日夜、カ

ナダ第一の目的地オタワに着く。空港には北海道支場の山口博昭氏とカナダ林業省森林病虫局の局長補佐(昆虫) Dr. B. H. McGUGAN らが出迎えてくれた。もう一人の局長補佐(病理)の Dr. V. J. NORDIN はウイーンでの顔なじみであるが、出張中でその日は会えなかった。

山口氏はカナダの最東部に近いフレデリクトンの森林病虫害研究所に留学中であるが、はるばる800kmを飛び、わざわざ、出迎えてくれたのである。3月末に羽田で見送って以来7カ月ぶりである。すっかりカナダの生活にもなれ、言葉も達者になり、ますますたくましくなったのかもしれない。

アメリカ・カナダ滞在中にだんだんと判ってきたことであるが、われわれが、送った青島氏といい、山口氏といい、わずか半年1年の間に大いにそのすぐれた能力を発揮し、信用をはくしている。2人のボスであるということによって、私自身も信用され鼻を高くした。いま、カナダは研究陣強化のために、すぐれた学者を外国から招聘しているが、これらの2人にも少なからぬ触手を動かしたらしい。そのような口振りを再三きかされたが、私は“日本の製品はどんどん買ってもらいたい、この2人を輸出するわけにはいかない”

とっておいた。

オタワ滞在の予定は6泊で、その間に出来ることならベルヴィルの生物的防除研究所も見たかったが、3日間も休みの日にぶつかり、やむなくベルヴィル行きを割愛しなければならなかった。

敷も米も土・日は休みである。ところで、11月10日の土曜日はカナダの国祭日(戦勝記念日)であった。カナダでは休日と祭日とが重なると、休みが次の月曜までもちこされる。旅行者にとって禁物の休日が3日もつづいたのは痛手であった。いうまでもないが、旅の日程づくりには注意しなければならぬ。

カナダの休日は徹底的である。州によってちがいがあろうのだが、店は土曜は午前だけ開いている。日曜は、宗教の関係で映画館まで休んでしまう。オタワのように首都とはいっても、人口20万ていどの小都市で、産業もなく商店街も淋しい町では、休日は閉口である。郊外は景色がよいので、車でもあれば、生物学者にとっては良いレクリエーションもできるが、旅行者はつらい。幸いに大使館の山田さんや、出張から帰ったノーデン氏が適当にお相手をして下さったので助かったが。

オタワのホテルで夜おそくまで話しこんだ山口氏と私は翌朝8時半に森林病虫局をたずねた。林業省は目下建築中で、それまでは各所に分散している。病虫局は市内のモータービルに間借りをしていた。局長の Dr. M. L. PREBBLE にあいさつする。プレッブル博士には山口氏や菌類の青島清雄氏の留学のことでひじょうにお世話になっていたもので、心からの礼を申しのべる。

カナダ訪問は、こんどの旅行の主な目標であった。かねがねカナダの森林病虫害の研究が世界一といつてよいくらい活ばつてあるだけでなく、研究組織がきわめて体系化していることなど、遠くから見て感心させられることが多かった。それでカナダを見たいというのが私の多年の願いであったが、いろいろと懇をだしたためにカナダ滞在は2週間たらずになり、しかも晩秋初冬という季節的にも最適の時をえらべなかつたことは残念であった。

さてプレッブルさんに会うとき、私は次のような質問を用意していった。

林業省の組織、病虫害研究の組織、研究テーマの決定、基礎研究と応用研究、大学との関係、農業との関係、研究成果の発表、共同研究、病虫害の調査などである。

プレッブル氏は非常に熱心に懇切に答えてくれたが、残念ながら私の会話能力はまだ不十分だったので、氏が熱をいれだすと聞きとれなくなり、さらに深くつっこむことができなかった。聞きち

がえ、聞きもらしも多いと思うが、少なからず参考になったので、一応これを取りまとめ、報告しよう。

#### a. カナダ林業省の組織——病虫害の研究を重要視する

林業関係はこれまで農業省と、北方領土管理・国土資源省(Dept. of Northern Affairs and National Resources)に所属していたが1961年4月に林業省(Dept. of Forestry)として独立した。その機構(山口博昭氏も、北方林業147号(1961. VI)に報告している。)は

林業省	管理局 Administration Branch	Forest Entomology and Pathology Branch
		Forest Research Branch (造林、育種、土壌、経費、防災にかんする研究、地方に8研究所をもつ)
	森林調査局	Forest Production Branch (オタワ、バンクーバー研究所)
		林産局

である。管理局を除く他の3局は研究所をかかえ研究行政が主な仕事である。管理局は日本の林政部に当たるが、各州の自治権が確立しているので連邦政府ではその連絡調整や広報活動的な仕事が主である。局の規模は至って小さく、30~40人の職員がいるだけだといふ。もっとも人数の多少だけで仕事の量や権威を評価することはできない。日本にくらべて、事務能率が著しく高いからである。

それはともかくとして、4局中の3局は研究行政を行っており、カナダの林業省は林業研究省とでもいった感をうける。

**森林病虫局:** 林業省独立以前には農業省にあった森林生物局(Division of Forest Biology)といわれていた。病虫局は林業省の中で最大の局であるが、オタワの局長室(Head Quater とよんでいる、以下HQ(本部)と略す)には局長の下に2人の局長補佐がおり、それぞれ専門昆虫と樹病のPLを分担していることは前のべた通りであり、さらにその下に数名の補助者が座っていた。したがって、局本部の職員数はきわめて少ないが各州に1~2の昆虫、樹病または昆虫樹病研究所をもち(合計3、うち2支場をふくむ)研究員その他の職員600余人を擁している。その数は林業省の総職員の半分を占める。

これらのことはカナダの林業が、いかに研究をそしてその中でも病虫害の研究を重視しているかを物語るものである。

なぜ、カナダの林業は病虫害の研究に力をいれ

るか? カナダには広大な天然生林がある。森林はカナダにおける最も重要な天然資源の一つである。この資源を合理的に利用し、資源を永久に確保することはカナダ林業行政の大使命である。天然林の保全には、これをおびやかす火災とか病虫害から保護することが第一の問題である。天然更新が比較的楽なカナダの天然生林では、育てる苦労よりも災害からまもる苦労の方が大きく、それが焦眉の急を要する問題なのである。この点は日本のように育てる苦労の多い林業とは著しく異なっている。

事実、カナダにおける病虫害の脅威は大きく、ハマキガ、ハバチ類、シヤクトリガ、マツクイムシ、アブラムシなどの虫害、発疹銹病、ポプラ類の胴枯病 (Hypoxylon canker)、カンバ類の立枯病、各種の心材腐朽病などによる被害は、山火事の被害を2倍以上も上まわるのである。従って病虫害研究に力をいれる必然性があったともいえるが、日本が同じ立場におかれた場合、同じような経過をたどるかどうかは疑問である。それにしても、病虫害の研究と他の林業林産研究とが不調和に思われるので、ノーディン博士にたずねたところ、“これがノーマルな姿だとは思わない。病虫害の研究も未だしであるが、今後は造林、育種その他の研究を、もっと充実して行かねばならない”ということであった。これに対して日本の研究体制の現状はカナダとすべて正反対である。森林条件や伝統のちがいはあるが、近代林業へと脱皮しつつある日本の林業界は、林業研究のあり方についてもっと科学的に考えねばならないのではないか。

**カナダにおける森林病虫害研究の特長:** 病虫害研究に力をいれる理由は以上のとおりであるが、カナダの病虫害が広大な天然林の保護にむけられていることから、研究は病虫害の生態学的研究とサーヴェイの仕事に重きがおかれている。トウヒのハマキガ、ハバチの個体群の変動についての大規模な生態学的研究はめざましい発展を示している。山口氏の留学もこれらの共同研究に参加し、共同研究のあり方、思想について学ぶのが目的であったがいずれ同氏からくわしくお聞きしたい。

また生態的研究思想の発展によって天敵研究すなわち生物的防除の研究にも非常に力をいれることになった。ベルヴィルの農林省所属の天敵研究所、ソー・サン・マリー市にある昆虫病理研究所などは世界でも1~2を争う、大規模なものである。あるいはその中心的研究所とも考えられる。

以上のようなカナダの特長は、つとに生態的防除論を提唱する私の心を、強く動かすものであった。

## b. 研究テーマの決定について——

研究の自由について

研究テーマは研究者が立案し、研究の計画を立てる。計画書は研究所の所長または専門部長の校閲を経て、本省におくられる。提出は次年度開始の半年前である。局本部では前記ノーディンまたはマッゲガン博士が専門の立場でこれを検討し採否を決定する。こうして次年度計画がきまると一括して局長のプレッブル氏が予算獲得の折衝をする。

なお、ノーディン、マッゲガン両氏は年に1~2回、国内の全研究所を訪ね、所長、研究者と懇談し、各州の実情、研究の実態、進捗状態、研究者の個性、希望などについてふだんから掌握しておく。

研究計画がいったん本部の承認を得れば、その研究は絶対に保証され、研究者は安心して不自由なくその研究に精進することができる。それだけ研究者の責任も重いわけである。

研究の進捗状態についても年一回報告書を提出するが、計画書とともにファイルシステムで美事に整理され、病虫害の書棚に整然と保管される。だから局に行けば、どこで、だれが、何を、いつから、どのように研究し、どの程度まで進んでいるかがはっきりと判るようになっているのである。

このような事務整理の仕事は両専門部長の下に数名の女性職員がいるだけで、能率よく処理されているのであるが、事務能率が高く、常に整然としていることは驚くばかりである。日本人がもっとも不得手なところであり、大いに学ばねばならない。

私はついでに研究の自由ということについてもたずねて見た。行政の立場にある局本部のPLがどの程度に決定権をもっているか。研究に対してどこまで研究者の自由がみとめられるか? 日本ではしばしば論議される問題である。

本省の病虫害局は前記のように強い権限をもっている。国が必要としないような研究は当然のこととしてみとめられない。したがって、最後のそして最高の決定権は局本部にあるわけである。このことを観念的に考えると、研究者は強い束縛を受け、自由がないように考えられるであろう。

日本ならば、そんなところに議論が沸とうすることであろう。しかし実際問題としては、良識ある研究者の研究に国が必要としないようなものはない。だから問題はないのである。議論は机上の空論であり、言葉の上の議論にしかすぎない。

ただ問題は研究の方法論である。研究の窮極の目標には問題はないとしても、いかなる方法でこ

## ■ 森 林 防 疫 ニ ュ ー ス ■

れを解決しようとするか？ ある目標を達成するために、どの登り道を選ぶか？ 基礎がためをどの辺の深さまでほりさげるか？ などということになると、研究者によっては考え方のちがいがでてくるであろうし、研究者と本部PLとの間に意見の食いちがいが起こるであろう。

どちらの意見も正しい場合があり、どちらもまちがっている場合もあり、どちらか一方が誤りである場合もある。これを解決するものはお互いに相手を理解し尊重する度量であり、両者の科学的精神である。だから研究者のオリジナリティは独善的オリジナリティーでない限り、あくまで尊重される。

カナダの林業省が研究に絶大な力こぶをいれていること、第1線の研究者と研究所長と本省の研究行政の首脳者との間に太い筋がとっていることは学ぶべきことである。しかも研究行政の本部には強い権限が与えられている。この権限は下にも上にも強い力をもつものであるが、ふだんの話し合いや監査によって研究者の意向は十分に汲みとられている。

従って研究の計画方針がきまれば、この強い権限は外に向かって発揮される。科学的精神に基礎をおいた良識ある研究者のオリジナリティーは尊重され、十分な予算も与えられるのである。これらは現在の局長であるブレッブル博士やこれを補佐するマッダーガン、ノルディン博士らの人格、識見にもよるであろうが、基本的には科学を尊重し、研究者を信頼する精神が政府および国民に徹しているからであろう。

科学者や研究者は変わり者で、自分のことしか考えないとか、研究の自由の名をかりて勝手気ままに研究をしたがっているものだと、頭からきめてかかっている人が多い日本とはたいへんなちがいである。

研究者は正直である。信頼されるならば、信頼を裏切ることにはしないのである。信頼されないために、研究費が少なすぎるために、ただ研究意欲だけを満たさんとして自慰的な研究にとりくみ、社会から遊離してしまうことがまれにはあるかもしれない。しかし、それさえも、研究の本質的意義が理解されないために、研究者をそのように追いこんでしまう場合が多いのである。

### c. 基礎研究と応用研究——昆虫と菌類の分類学は農林省が責任をもつ

日本では基礎と応用ということが常に問題になる。本場は基礎を、支場は応用とか、農学部は応用研究を基礎研究は理学部でとか、基礎をやりたければ大学へ行けとか、基礎研究は高尚で、応用

研究は低級だとか、いろいろなことがいわれる。そしてお互いに反撥したり、卑下したり、羨ましがったりし、相互の連絡提携がきわめて乏しい。しかし、凡そ愚にもつかない議論だと思う。農林業の研究はいずれも産業に結びついているから、当然のこととして応用目的を持っている。理学部の研究にははっきりした応用目的はないから、真理追及とか、未知の世界を探ることが目標とされる。

それはそれでよい。しかし応用目的をもつ研究あるいは技術開発を目的とする研究でも、その土台となるものは科学であり、真理である。だから理学は真理を追及する学問で、農林学は真理追及をする学問ではないということにはならないのである。真理を求めなければ正しい技術は生まれない。技術の改良だけが農林業の研究ではないのである。

ただし、理学的研究と農学的研究とにちがいがあるとするならば、それは何であろうか？ 理学部の研究は真理追及が目的であるから（それだけでよいかどうかは判らない）、真理と名がつけば何をやってもよいということになる。客観的な急、不急は別に問題でない。自由といえば自由であるが、勝手気儘ということもできる。その代わり、研究が中絶しても社会的にはさしずめ痛痒を感じない問題もある。もちろん、不必要な真理というものはないであろうから、その研究が無価値だという意味ではない。

ところが、応用系統の研究には、応用目的がある。それを達成するための真理追及であるから、同じ真理追及といっても選択の範囲に制限はあるし、その範囲の中でもきわめるべき緩急の順序がある。その意味においては勝手気ままには許されたいであろう。

理学系の研究機関と応用学系の研究機関の研究のちがいは、要するに目的のちがいであって、方法や深さのちがいでないのである。応用研究でも、われわれが必要とする基礎研究は積極的に行なわなければならないし、大いに投資もされなければならない。名前が基礎研究だからわれわれの範疇外だなどといっていると、農林業は遂に自ら墓穴を掘ることになる。

カナダの農林省の中央農業研究所 Central Experimental Farm には昆虫学研究所とか植物学研究所がある。昆虫学研究所には、養蜂、作物害虫、昆虫の遺伝および生理、ネマトーダ、分類学のような科が、植物学研究所には、農業気象、生理および生化学、植物病理学、菌学、分類学などの科が設けられている。

ここで分類学の例をあげて農林省の研究の仕

組みを見てみよう。

生物の分類学は生物学の基礎学であり、基礎知識である。分類学はその性格上、基礎生物学であるから、日本式に言えば理科系の研究機関がやるべきことである。ところが最近の生物学界では分類学は非常に低調になってきた。興味がもたれなくなったのである。きわめて不健全な姿であるが。

分類学が低調になっても別に痛痒を感じない生物学もある。また分類同定が必要であっても、分類学の基礎研究が進んでいる生物をあつかう研究では、同定にあまり苦勞を感じない。ところが、分類研究が未熟な分野では、そのために非常にこまるのである。たとえば最近農業で大問題になったネマトーダは防除研究と同時にネマトーダの分類学的研究をまずはじめなければならなかつた。

昆虫とか菌類なども同様で、その中のある部分は研究が進んでいるが、未開の分野も非常に多いのである。ところで昆虫や菌類の分類学もまた、生物学界の一般風潮にのって、きわめて低調になった。そのおかげで痛手をうけるものは誰かという、それは理科系の生物学界ではない。農林業界なのである。

カナダの中央農業研究所には前記のように昆虫および植物の研究所があり、昆虫や菌類の分類学の研究を活潑に行なっている。いや単に活潑というだけではない。菌類については、15名余の分類学者を擁し、菌類の各分類群を組織的に分担し、分類同定の研究を行なわせているのである。昆虫についてはさらに多くの研究者をそろえている。そしてそれぞれ国立昆虫（または菌類）標本室の整備につとめている。

さらに、突っこんでいうならば、菌類や昆虫の分類学は農林業が最も切実に必要とする基礎研究であるから、農業省がこれの責任をもつ、責任をもつ以上、単に農林業に関係ある菌や昆虫の研究をするだけでなく、他省、他の産業の要求にもこたえようという度量で、これに力を注いでいるのである。

昆虫の一部分を研究しようが、全部を研究しようが、必要とする文献とか、標本は同じなのである。関係ある昆虫しか研究しないということは、日本的考えでは一見無駄がなく合理的のように思われるかも知れないが、実は甚だしい無駄があるのである。だから、日本のように群小研究所が割拠するような結果になり、全体を集めて見ても、標本も文献も研究者も、いたずらに重複が多く、穴はいつまでたっても埋まらないということになる。

貧乏の上に（必ずしも貧乏とは思わないが）セクシヨナリズムというか見解のせまさがこのよう

な無駄を生んでいることを反省しなければならない。

#### d. 大学との関係

直接には何の関係もないとのことであった。それぞれは全く独立である。また林業の病理昆虫に関するかぎり、大学には専門家は少ない。ただし日本のようにほとんど零というようなことはない。

しかし、問題によっては大学の教授に研究を依頼することがある。もちろん研究費をつけて依頼するというので、表面的には日本と変わらないようである。これまで、カナダの農林業省から送られる論文を見ると、大学の教授に依頼した研究論文は農林省の経費で別刷がとられ、農林省から発送されていることがわかる。

#### e. 農業との関係

昨年春まで保護の研究は農業省の中に森林生物局として所属していた。分類学その他の基礎生物学の研究は中央農業試験で行なわれていた。農林両省が分離した際に、これらの基礎部門は農業省に残されたが、任事の面での協力は今後も円滑に続けられるであろう。たえず両者間の協議がもたれるとのことであった。

#### f. 研究成果の発表—— 成果は1人でも多くの人に読んでもらう。

研究が一段落すると研究者はそれを取りまとめ直属の部長および所長の校閲を経て本省に送る。発表雑誌については本人の希望を記しておく。

本部には前にのべたように専門の局長補佐がおり、また2人の編集委員がいる。これらの責任者が専門的に原稿を見、必要があれば手を加え、著者に送り返す。著者はこれらの順序を経て最終原稿をまとめ再び提出する。論文の内容により本部では発表する雑誌をきめて印刷にする。原稿は却下されるものもあるそうである。

別刷については、印刷部数は1,200~1,400部。うち400~500部が著者および著者の所属する研究所に送られる。残りの800部内外は本部にとめておき、林業省の抄外係にそなえてある送り先のリストによって事務的に発送される。

私は、ここで日本の林業試験場の本支場システムをのべ、研究報告は1本であるから、カナダの報告は目黒だけでなく、全支場にも送ってもらいたいとのべ、支場名を発送名簿にのせてもらった。

各研究所でも研究所としてまた個人としての必要先に発送する。この送料のことであるが、日本では別刷の交換は個人的の交際だから個人が負担すべきだとの解釈をする場合が多い。日本流の考え方にも一理はある。

## 森 林 防 疫 ニ ュ ー ス

しかし、研究は個人の名誉のために行なっているのではない。国のために行なっている。論文は書いただけではまだ不十分である。一人でも多くの人に読んでもらってこそ意義があるのである。こうして、できるだけ広く、交際をひろげ、日本を知らせ、研究者もまた広い交際によって内外の知識を吸収する。それがまた国の研究を助け、研究者を大きく育てることになるのである。従って論文の交換は個人の利益だけではないのである。研究者を育てることは大事業であり、長い年月を要するものである。立派な研究者を育てることを眼目におけば、成果はおのずからあがり、枝葉末節の議論はしないですむようになるであろう。

### g. 研究者間のサービス——共同研究

農業省の管轄下にあるが、同省の研究局に研究所のほか **Research Service** (研究サービス部) という部がある。それは化学分析、機械研究、統計学研究をする組織である。たとえば統計数学は近代的研究のための重要な武器であるが、生物学者がこれを縦横に使いこなすことは容易でない。研究の分業化が進んでいる今日、餅は餅屋で、数学的処理については専門家に委ねることが、より正確でより能率的であることはいままでもない。

農林両省の各研究で数学処理が必要なものについては、この部に所属する統計数学研究所に依頼することができるのである。生物学者も専門家にたのんだ数学的処理に自信をもつことができ、外から見ればそのデータに対する信用度も高くなるのである。

このような横の連絡はきわめてスムーズに行なわれているようであったが、研究者がそれぞれ自己の特性を最大限に生かしながら、しかも他の研究に対して理解をもち、相助け合いサービスをしあいながら研究を進めて行くことは、特に学ぶべき態度であり、組織である。

林業、農業のような総合的な応用科学では各専門家間の緊密な共同研究の推進や協力はきわめて重要である。最近わが国でも、共同研究が各方面でとりあげられるようになったが、共同研究にはサービス精神と共通目標を堅持する絶えざる反省がきわめて重要である。

### h. 森林病虫害のサーヴェー——病虫害の国勢調査、発生消長調査の仕事に力をいれる。

カナダの森林病虫害研究所員の名簿と仕事の分担について一覽表をつくってもらった。これを見ると、どの研究所にも2~3名の研究者が病害または昆虫の調査 (survey) を担当していることがわかる。

調査というと、日本では研究ではないとか、研

究よりも安手な仕事のように考え、最新式の機械を使ったり、生物学の研究に物理化学的な手法をとり入れることが高級な研究であるかのように考えがちであるが、大変な錯覚である。

カナダの病虫害研究は腰をすえ、年期をかけたサーヴェーの上に立って進められている。この仕事の担当者は、ざっとかぞえて30名近く、半数は学位を持つれっきとした学者である。

ソー・サン・マリーの森林昆虫研究所でサーヴェーの仕事について説明してもらった。この研



ソー・サン・マリーの森林昆虫研究所で  
サーヴェー研究室の昆虫標本だんす

究所の所管は主としてオンタリオ州であるが、またカナダ国内での中心となる研究所でもあり、研究者も20余名に上っているほど強力である。

サーヴェーについても特に力をいれ、研究員の下に30余名の昆虫監視員 (これまでは ranger といったが、今では technician 技術員と呼んでいる) をかかえ、各地区の森林内に駐在させている。監視員は林内に建てられている監視所 (実験室をかねる) に、春から秋末にかけて家族ぐるみ生活し、定められた調査個所を定期的にしらべ、またたえず林内をまわって観察し、資料を採集する。

こうして、昆虫相の実態、害虫の消長、昆虫の生態などをしらべ、その記録、標本を研究所に送る。サーヴェー室では、これらを各種のパンチカードに記入して整理してあるので、いつでも必要なデータが過去現在を通じてひきだせるようになっている。

採集される昆虫には種名も生活史も判っていないものが多い。種名の不明なものは、オタワの中央農業研究所の分類学者に送って研究をしてもらい、生活史不明の虫は直ちに飼育され——温度調節自在の飼育室が地下にある——、はっきりさせる。

昆虫標本は卵、幼虫、成虫など各世代のものが

## 森林防疫 ニ ュ ー ス

作られ完全に整理保存される。標本づくりは女性の仕事で、馴れた手つきで美事な標本をつくっていた。カナダの女性も器用なものである。特に幼虫標本のコレクションには感心させられた。

ふだんからたゆみなく行なわれているサーヴェーの仕事によって、カナダの森林の昆虫相は次第に明らかにされている。分類学的研究も生態学的研究も着実にすすめられていくので、いついかなる害虫が発生しても、a b cから研究を始める必要はない。病虫害は何がでてくるか判らない。その度に種名だ、生活史だといっている間に被害はどんどんひろがって行くのがふつうである。

カナダが力をいれている、この基礎がためへの努力は、やがて森林保護の研究にけんらんたる花を咲かせるであろう。すぐれた研究成果は生まれつつあるが、論文にあらわれた成果は冰山の一角にしかならない。海面下にかくれている大きな母体があることを忘れてはならない。

サーヴェーは地道な仕事であり、縁の下の力持ちである。この仕事に黙々と精進する研究者と監視員、この人たちの仕事に生き甲斐を感じさせる環境、すべてに奥深い科学的精神が感ぜられるのである。

サーヴェーによって得られた記録は必要に応じて速報され、また、整理され年報として印刷される。そして、発生予察研究の基礎ともなるのであ

る。日本の稲作における発生予察事業は世界的にもすぐれた研究の積みあげが実を結んだもので、その組織体制は世界にも類がないが、これも長年つみ重ねた地道な調査、研究なしにはできなかったのである。ひとり病虫害だけでなく、基礎の弱体が日本の近代文明の欠陥であることが何かにつけ反省させられるのであった。

サーヴェーはこのように重視されているので、監視員は採用後、数カ月(?)のあいだ専門的訓練をうける。また春から秋にかけての林内生活には特別の手当——たとえば食料など官給——をうけ、ジープもあてがわれ十分な機動力が発揮できるようになっている。監視員は単にサーヴェーだけでなく、他の研究者の要求に応じて資料の採集もする。研究者がある種の昆虫を大量に求める場合なども、電話一つで豊富な材料が各地から送られるのである。これも監視員の協力のおかげであり、研究者は常に数十本の手足を持っているようなものである。

ソー・サン・マリーの研究所には北海道学芸大学の竹内恭教授が昆虫の細胞学的研究のため招聘されていた。滞在中、ひじようにお世話になった。昆虫学を通し日本のため、また科学のために、日本人が1人もいないこの田舎町で黙々と研究を続けておられた、竹内博士に敬意と感謝の意を表する。(つづく)

## 刊 行 物 紹 介

◆日本林学会 日本林学会大会講演集 (第71回)  
昭和36年4月

- 伊藤 一雄 : カラマツ「こぶ苗」病の研究(予報)  
小林 享夫 : (その2)  
小林 弘子  
小林 享夫 : マツの皮目枝枯病に関する研究(予報)  
眞宮 靖治  
佐保 春芳 : ストローブマツ葉さび病に関する研究  
(III)  
各種二、三、四葉松に対する *Coleosporium euhatorii* A. の小生子接種試験について
- 遠藤 昭 : カラマツ稚苗の立枯病防除試験  
渡瀬 彰
- 慶野 金市 : 丸太に散布した薬剤の行動(2)  
富樫 郁子 : 樹皮面からのPCPおよびその塩類の浸潤について  
丸太に散布した薬剤の行動(3)  
富樫 郁子 : 薬剤処理面からのPCPおよびNa-PCPの濃度分布について
- 吉岡 晃 : プナ生丸太保護の実用化について  
佐藤 一郎
- 菊谷 光重 : 薬剤による丸太の防虫効果  
川田 正一 : ——とくに薬剤効果の測定に関する一試案をもとにして  
林 保
- 川崎 俊市 : BHC燻煙剤に関する基礎研究  
伊藤 勝夫

- 藍野 祐久 : スギノハダニの生態に関する研究  
萩原 実
- 古野 東州 : マツノシンマダラメイガの加害について  
岡本 憲和 : (I) 加害マツ属について  
四手井 綱英
- 古野 東州 : マツノシンマダラメイガの加害について  
岡本 憲和 : (II) 加害形態について  
四手井 綱英
- 藍野 祐久 : マツカレハの蛹の羽化におよぼす温湿度  
山田 房男 : の影響  
小林 一三
- 日塔 正俊 : 茨城県鹿島地方におけるマツカレハにつ  
小久保 醇 : いて ——蛹の死亡について——
- 近藤 秀明 : マツケムシの越冬について  
山本 雄三
- 有賀 好文 : アカマツ幼令木の摘葉試験(予報)
- 西口 親雄 : オオアカズヒラタハバチの食葉がドイツ  
清一 : トウヒの生長におよぼす影響
- 日塔 正俊 : 昭和34年7号颱風による風害跡地のマツ  
加藤 幸雄 : クイムシの発生
- 山口 博昭 : 風害後におけるヤツバキクイの棲息数の  
小泉 力 : 変動
- 飯塚 達児 : キクイムシ類防除の一方法について  
加辺 正明 : *Hylesinus* の加害樹種と食痕
- 小島 圭三 : 琉球におけるタケ類の害虫サビアヤカミ  
国吉 清保 : キリについて  
岡部 正明

(担当: 林野庁造林保護課/永井 進)

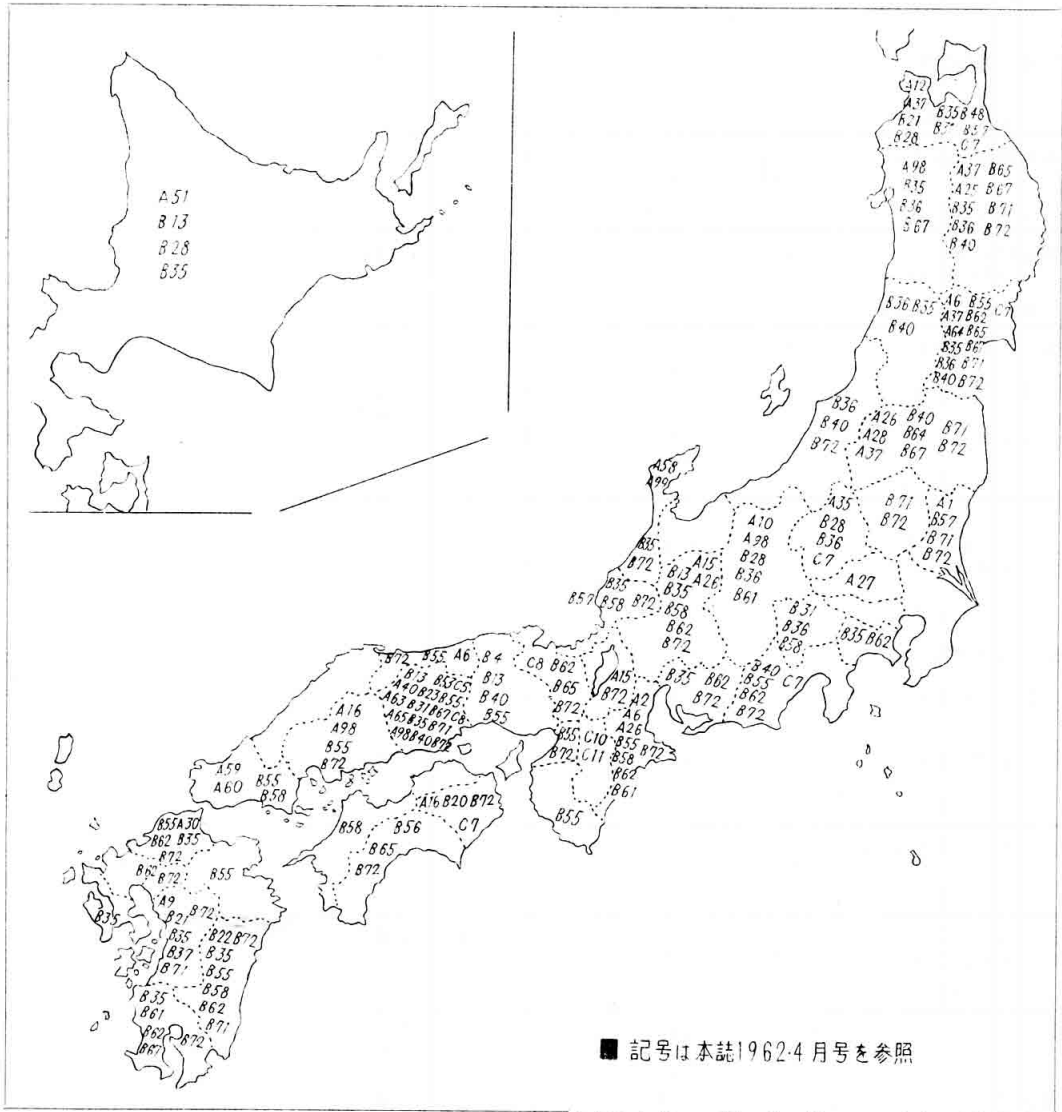


情報 被害速報

森林病害虫獣被害(発生)速報カードの提出状況

被害(発生)速報カード6月20日~7月19日到着分(本号掲載分の集計)

	松くい虫	松毛虫	クリタマバ	スギノハニダ	マツバノタマバエ	マイマイガ	スギノタマバエ	ノネズミ	ハバチ類
被害数量	1,305㎡	2,949ha	1,450㎡	7,436ha	— ha	170ha	481ha	42ha	766ha
報告件数	38	61	12	162	—	8	11	6	24
	カラマツ先枯病	その他害虫	その他病害	その他獣害	計				
	274㎡	3,069㎡	2,545ha	63ha	496				
	26	106	37	5					



■ 記号は本誌1962.4月号を参照

本号から新しく追加した記号  
 A97・その他タケの病害  
 A98・その他針葉樹の病害  
 A99・その他広葉樹の病害

## 森林防疫ニュース

## 病 害

## ○ タケの開花病

発生場所	被害程度	樹種 樹齡	被害数量	発見 月日	情報提供者氏名	摘 要
茨城久慈郡大子町		タケ 1～4年	面積 1ha 本数 18千本	6.27	大子地区林務駐在所 根本 敏行	全竹林の3/4は開花し枯損、 川ぞいの竹林で増水時浸水

## ○ タケの天狗巣病

三重名張市		タケ 2～6年	面積 4ha 本数 47千本	6.20	名張市役所 宮本 正一	
-------	--	------------	-------------------------	------	----------------	--

## ○ 針葉樹稚木の立枯病

宮城青森局石巻署 (桃生郡雄勝町)		アカマツ クロマツ 播種苗	面積 217m <sup>2</sup> 本数 32千本	5.27	雄勝町 柴田 武	
三重鈴鹿市追分町		ヒマラヤ スギ 播種苗	面積 0.04ha 本数 10千本	6.20	四日市林業事務所 石川 淳一	埴質壤土、排水不良地
鳥取東伯郡関金町		アカマツ 2年(苗畑)	面積 0.01ha 本数 300本	6.11	倉吉地方農林振興局 永田指導員	

## ○ スギの赤枯病

熊本球磨郡多良木町		スギ 2～3年	面積 0.5ha 本数 350本	5.16	多良木町 野崎 勝人	
-----------	--	------------	---------------------------	------	---------------	--

## ○ スギのみぞ腐病

長野長野局妻籠署 (西筑摩郡南木曾町)		スギ 4～5年	面積 3.27ha 本数 0.5千本	6.16	妻籠営林署蘭担当区 畑中 静雄	
------------------------	--	------------	-----------------------------	------	--------------------	--

## ○ スギの枝枯菌核病

青森三戸郡三戸町		スギ 3～5年	面積 0.2ha 本数 430本	6.2	三戸町 沢口 信一	
青森三戸郡岩木町		スギ 5～8年	面積 0.2ha 本数 32本	5.12	弘前市相良町26 弘前林務出張所	
青森弘前市		スギ 8～15年	面積 0.65ha 本数 98本	5.12	〃	

## ○ スギの黒点枝枯病

岐阜名古屋局荘川署 (大野郡荘川村)		スギ 9年	面積 0.05ha 本数 100本	6.26	新瀬担当区 川瀬 健一	
滋賀高島郡今津町		スギ 5年	面積 10ha 本数 30千本	5.10	今津県事務所	

## ○ スギの黒粒葉枯病

徳島麻植郡木屋平村		スギ 35年	面積 1.20ha 本数 1.5千本	6.15	県林業経営課 中野 子	
徳島勝浦郡勝浦町		スギ 10～20年	面積 1.5ha 本数 2千本 材積 300m <sup>3</sup>	6.22	〃	
広島佐伯郡佐伯町		スギ 5年	面積 0.5ha 本数 1.5千本	6.20	佐伯担当区事務所 高橋 宏司	

## ○ スギのペスタロチア病

徳島海部郡日和佐町		スギ 1～15年	面積 3.0ha 本数 2.4千本		由岐町 増田 憲治	
-----------	--	-------------	----------------------------	--	--------------	--

## ○ スギの病害

秋田山本郡二ツ井町 八森町, 山本村		スギ 5～8年	面積 9.3ha 本数 28千本	4.28	山本林業事務所 大塚 福蔵	
-----------------------	--	------------	---------------------------	------	------------------	--

## ○ マツの葉枯病

岐阜多治見市		アカマツ クロマツ 3～25年	面積 2.0ha 本数 350千本 材積 350m <sup>3</sup>	6.20	31森林区 安藤 郁夫	
三重鈴鹿市		アカマツ 2年(苗畑)	面積 0.6ha 本数 1.5千本	6.20	四日市林業事務所 石川 淳一	
三重阿山郡伊賀町		アカマツ 1～15年	面積 4ha 本数 8千本	6.29	伊吹町 山崎 茂	激害50%, 中害50%

森 林 防 疫 ニ ュ ー ス

○ マツの白葉枯病

発生 の 場所	被害 程度	樹 林 種 類	種 齢	被 害 数 量	発 見 月 日	情 報 提 供 者 氏 名	摘 要
埼 玉 入間郡鶴ヶ島村		アカマツ	面積 2～15年 170ha	本数 120千本	6月	県, 林務課	
大里郡寄居町		アカマツ	面積 5～10年 25ha	本数 40千本	7.2	熊谷農林事務所	
岡部村						岸野 繁	

○ マツの葉ふるい病

福 岡 朝倉郡三輪町		クロマツ	面積 30年 0.01ha	本数 6本	5.20	甘木市 甘木農林事務所	
------------	--	------	---------------------	----------	------	----------------	--

○ マツの皮目枝枯病

岡 山 新見市		クロマツ	面積 10～16年 4.0ha	本数 10千本	4.10	新見農林事務所 A g. 日並 哲郎	
---------	--	------	-----------------------	------------	------	-----------------------	--

○ カラマツの落葉病

群 馬 利根郡白沢村		カラマツ	材積 30年 13m <sup>3</sup>		6.23	沼田市 小曾根二雄	
------------	--	------	-------------------------------	--	------	--------------	--

○ カラマツの先枯病

青 森 青森局脇野沢署 (下北郡脇野沢町)		カラマツ	面積 3～32年 25.31ha	本数 26千本	6.20	西脇野沢担当区 玉田 明	
青森局野辺地署 (上北郡六ヶ所村)		カラマツ	面積 31～32年 3.2ha	本数 67本	6.25	野辺地町 山端 敬二	
青森局三戸署 (三戸郡田子町)		カラマツ	面積 4～15年 19.6ha	本数 26千本	6.25	田子担当区事務所 松尾 邦男	
岩 手 青森局大船渡署 (陸前高田市)		カラマツ	面積 — —	本数 —	5.28	矢作担当区事務所 今野 憲徳	
青森局盛岡署 (紫波郡紫波町)		カラマツ	面積 17年 0.64ha	本数 400本	6.21	赤沢担当区事務所 小野寺圭喜	
青森局田山署 (二戸郡安代町)		カラマツ	面積 — 4.5ha	本数 12千本	6.15	日泥担当区 工藤 昭男	
青森局花巻署 (種別郡石鳥谷町)		カラマツ	面積 12年 3.26ha	本数 100本	6.15	石鳥谷町 大森 哲夫	
宮 城 桃生郡桃生町, 河南町		カラマツ	面積 7.5ha	本数 20千本	7.6	桃生森林区 A g. 佐藤 斉	
栗原郡花山村		カラマツ	面積 4～10年 110ha	本数 260千本	6.16	花山村 鎌田 一男	
青森局石巻署 (桃生郡雄勝町)		カラマツ	面積 5年 2.0ha	本数 600本	6.14	雄勝担当区 松田 富	
福 島 前橋局猪苗代署 (耶麻郡猪苗代町)		カラマツ	面積 3～25年 51.32ha	本数 48千本	6.21	中野沢担当区 平野良雄	
					6.30	樋ノ口担当区 田中英夫	

○ ヒノキのろう脂病

岡 山 御津郡加茂川町		ヒノキ	本数 材積 1本 0.02m <sup>3</sup>		6.20	加茂川町 A g. 可児 義明	
-------------	--	-----	--------------------------------------	--	------	--------------------	--

○ エゾ雷丸病

北 海 道 北見局斜里署 (斜里郡斜里町)		トドマツ	面積 当年生 251m <sup>2</sup>		4.20	以久科苗畑事業所 三浦 春男	
--------------------------	--	------	--------------------------------	--	------	-------------------	--

○ ストローブマツの葉さび病

長 野 長野局上田署 (小県郡長門町)		ストローブ マツ S36植栽	面積 — 1.63ha		6.2	大門担当区事務所 三石 忠勇	
------------------------	--	----------------------	-------------------	--	-----	-------------------	--

○ カンの天狗巢病

石 川 珠洲市		カ シ	本数 60～130年 15本		6.11	県, 輪島事務所 珠洲駐在所	
---------	--	-----	----------------------	--	------	-------------------	--

○ キリの天狗巢病

石 川 七尾市		キ リ	面積 4～6年 4ha 1千本		7.10	七尾市万行町 左古 清一	
---------	--	-----	--------------------------	--	------	-----------------	--

## 森林防疫ニュース

○ キリのたんそ病		発生場所	被害程度	樹林種齢	被害数量	発見月日	情報提供者氏名	摘要
山口	柳井市			キリ 1～4年	面積 2ha 本数 530本	6.26	柳井市駐在 A g. 田中 勲	
○ キリのふらん病		山口		キリ 5年	面積 0.1ha 本数 12本	6.27	下関市役所 A g. 元部 重次	
○ クリのどう枯病		岡山		クリ 5年	面積 0.01ha 本数 2本	6.6	岡山農林事務所 A g. 酒本 裕士	
○ ハンノキ類の褐ぱん病		岩手		ヤマハン ノキ コバハン ノキ	面積 200ha 本数 2千本	5.9	県林政課 円子 信幸	
○ ハンノキの病害		岡山		ヤマハン ノキ 10年	面積 2.5ha 本数 1.5千本	5.4	倉敷農林事務所 古山 六男	
○ アカマツの葉さび病 ○ マツの葉枯病		福島		アカマツ 6年	面積 0.83ha 本数 1千本	6.28	大原担当区事務所 加部 輝夫	
○ シロアリ科の一種		兵庫		アカマツ 80年	面積 10ha 本数 20本	6.20	県林務課 木下 稔	
○ マツオオアブラムシ		岡山		アカマツ 4～5年	面積 0.1ha 本数 50本	6.19	加茂川町 A g. 可児 義明	
				クロマツ 2年(苗畑)	面積 0.03ha 本数 1.5千本	6.10	岡山農林事務所 A g. 山海 康正	
○ アブラムシ科の1種		北海道		エゾマツ 4～5年	面積 40.65ha 本数 740本	7.7	上士幌署	
		岐阜		アカマツ —	面積 14ha 本数 5千本	6.21	瑞浪担当区事務所 西本 一重	
		兵庫		アカマツ 3～4年	面積 6ha 本数 1.2千本	6.25	一宮町 A g. 上田純之甫	
○ スギクロホンカイガラムシ		三重		スギ 25年	面積 0.5ha 本数 15本	6.7	熊野市飛鳥町 朝尾 誉	
○ スギマルカイガラムシ		徳島		スギ 5年	面積 0.3ha 本数 900本	6.29	神山町 森 茂雄	
○ 半翅目の1種		岐阜		アカマツ 2～10年	面積 100ha 本数 3,000千本	6.8	可児町帷子森林組合 玉置 寛二	
○ キマダラコウモリ		熊本		スギ 5～8年	面積 0.3ha 本数 100本	6.12	人吉市願成寺町 源島 一郎	
○ コウモリガ		青森		スギ 5年	面積 0.01ha 本数 23本	6.23	県, 三戸林務出張所 松橋 文男	

森 林 防 疫 ニ ュ ー ス

○ ミノガ科の1種

発生 の 場 所	被害 程度	樹 林 種 類	被 害 数 量	発見 月 日	情 報 提 供 者 氏 名	摘 要
宮 崎 西都市		スギ 5年	面積 0.15ha 本数 400本	5.30	三財森林組合 A G . 原 礼三	

○ カラマツエダモグリガ

長 野 飯田市		カラマツ 8年	面積 0.3ha 本数 300本	6.26	飯田市 今井 勇	
---------	--	------------	---------------------------	------	-------------	--

○ カラマツツツミノガ

岩 手 岩手郡岩手町		カラマツ 5年	面積 4.9ha 本数 15千本	5.17	県, 林政課 円子 信幸	
------------	--	------------	---------------------------	------	-----------------	--

○ カラマツヒメハマキ

群 馬 前橋局草津署 (吾妻郡草津町)		カラマツ 1~10年	面積 33.12ha 本数 56千本	6.9	—	
------------------------	--	---------------	-----------------------------	-----	---	--

○ ハイロアミメハマキ

北海道 帯広局上士幌署 (河東郡上士幌町)		カラマツ 4~5年	面積 55ha 本数 28.5千本	6.12	上士幌署	
長 野 長野局諏訪署 (茅野市, 諏訪 郡富士見町)		カラマツ 7~40年	面積 477ha 本数 954千本	6.12	金沢担当区事務所 丸山 登	

○ マツツマアカシムシ

青 森 青森局横浜署 (上北郡横浜町)		アカマツ 1~2年	面積 3.6ha 本数 459本	6.25	横浜苗畑 伊藤 敬造	
兵 庫 加古川市		テーダマツ 3年	面積 0.27ha 本数 100本	6.10	県, 林務課 木下 稔	

○ カラマツイトヒキハマキ

北海道 帯広局根室署 (厚岸郡浜中村)		カラマツ 1~5年	面積 24.8ha 本数 6千本	6.22	根室署 造 林 係	
------------------------	--	--------------	---------------------------	------	--------------	--

○ マツノシンマダラメイガ

山 梨 東京局甲府署		アカマツ 1年	面積 4.77ha 本数 3千本	7.1	甲府担当区事務所 渡辺 幸平	
岡 山 御津郡加茂川町		アカマツ 3年	面積 0.01ha 本数 10本	6.11	岡山農林事務所 A G . 酒本 裕士	

○ ツガカレハ

北海道 北見局小清水署 (斜里郡小清水町)		カラマツ 3年	面積 35ha 本数 70千本	6.20	小清水町 福田 貢	
--------------------------	--	------------	--------------------------	------	--------------	--

○ マツカレハ

青 森 青森局市浦署 (北津軽郡市浦村)		クロマツ —	面積 7ha —	6.28	市浦村 下長 富男	
岩 手 岩手郡西根村		アカマツ 5~10年	面積 38.0ha —	6.28	西根町 A G . 高橋 昭三	
下関伊都川井村		アカマツ 10年	面積 0.03ha 本数 200本	6.29	川井村役場内 第74森林区 A G .	
稗貫郡大迫町		アカマツ 5~7年	面積 5ha 本数 30千本	4.24	県林政課 円子 信幸	
気仙郡三陸村		クロマツ 30年	面積 0.3ha 本数 1.5千本	7.3	— "	
宮 城 仙台市		アカマツ 1~10年	面積 19ha 本数 78千本	6.3	仙台森林区 A G . 大平 智里	
青森局気仙沼署 (気仙沼市)		アカマツ 19~32年	面積 85ha 本数 53千本 材積 8,000m <sup>3</sup>	11.4	気仙沼担当区 伊藤 清剛	
青森局石巻署 (牡鹿郡牡鹿町)		アカマツ クロマツ 28~37年	面積 275.11ha 材積 22,995m <sup>3</sup>	6.27	牡鹿町 大窪 誠	
青森局古川署		アカマツ	面積 100ha	6.6	古川署	

## 森林防疫ニュース

発生場所	被害程度	樹種 樹齢	被害数量	発見日	情報提供者氏名	摘要	
秋田 石川	(栗原郡栗駒町、 金成町、築館町) 栗原郡栗駒町 鷹沢町 本吉郡歌津町  登米県豊里町  鹿角郡尾去沢町  七尾市  鳳至郡穴水町  珠洲市	25~35年	本数 265千本 材積 10,300m <sup>3</sup>	5.27	戸沢 正次	魚付林に発生	
		アカマツ	面積 48ha				
		6~12年	本数 141千本	7.1	栗駒町役場産業課 鷹沢町管理室 菅原新一 歌津町役場林務課 菅原長太夫		
		クロマツ	面積 30.24m <sup>2</sup>				
		5~8年	本数 50千本	6.20	登米町		
		アカマツ	面積 2ha				
		10~30年	本数 6千本	6.19	鹿角林業事務所 西条 正志		
		アカマツ	面積 11.3ha				
		6~13年	本数 56千本	7.5	県、七尾事務所 伊藤 正雄		
		アカマツ	面積 30ha				
5~8年	本数 90千本	5.5	穴水地区駐在所 山口 忍				
アカマツ	面積 590ha						
3~30年	本数 1,180千本 材積 33,040m <sup>3</sup>	6.20	珠洲市農林課 倉田 信				
アカマツ	面積 40ha						
クロマツ				乙丸寿太郎			
福井	坂井郡川西町	7~8年	面積 10ha	6.24	県、林務課 小原 明 川西町 藤井 傳		
5~40年	本数 20千本 材積 1,200m <sup>3</sup>						
岐阜	可児郡御嵩町	アカマツ	面積 75ha	6.15~	御嵩町		
クロマツ	本数 233千本	6.25	伊藤勝比古				
3~5年	面積 110ha	5月~	豊橋市				
アカマツ	本数 210千本	6月	山田 哲夫				
クロマツ	材積 56,000m <sup>3</sup>						
10~70年	面積 —	6.19	建部町				
アカマツ	面積 0.01ha	6.20	岡山農林事務所 西村 定己				
6年	本数 7本	5.5	岡山農林事務所 山海 康正				
10年	面積 10.38ha						
アカマツ	本数 40千本	6.19	甘木農林事務所 林 務 課				
7~13年	面積 50ha						
クロマツ	本数 200千本						
15年	面積 5,000m <sup>3</sup>	6.22	上益城事務所 入口 健二				
クロマツ	面積 3.5ha						
10年	本数 10千本	6.22	高岡町				
クロマツ	面積 23ha	4月	国分市 伊星 祐憲				
—	本数 75千本						
小田 友行							
○ チャドクガ							
宮城	石巻市	ツバキ	面積 1ha	7.13	石巻農林事務所 芦田 栄一		
10~30年	本数 1.5千本						
○ ハラアカマイマイ							
長野	上高井郡東村	カラマツ	面積 3.0ha	6.19	上高井地方事務所 林 務 課		
30年	本数 3千本 材積 6,000m <sup>3</sup>						
○ マイマイガ							
岩手	岩手郡平石町 滝沢町	カラマツ	面積 2.5ha	6.18	県、林政課 円子 信幸		
8~60年	本数 5.5千本						
秋田	仙北郡神岡町	カラマツ	面積 15ha	6.29	仙北林業事務所 岡田竹二郎		
3~12年	本数 45千本						
山形	西置賜郡小国町	カラマツ	面積 29ha	6.1	小国地区駐在 岩崎 万二		
4年	本数 90千本						
群馬	前橋局草津署	カラマツ	面積 125.49ha	7.7	—		

森林防疫ニュース

発生場所	被害程度	樹林種齢	被害数量	発見月日	情報提供者氏名	摘要
新潟山梨		I 令級 広葉樹	本数 160千本 —	5.18	堀之内町	苗畑周辺の広葉樹に発生
		クヌギ	面積 2ha 本数 5千本	6.28	岸野 勇 県, 大月林務事務所	
長野		カラマツ 3~40年	面積 3,000ha 本数 1,220千本	6.20	A g. A g. 浦野 守治 神津 秀勝 春日 三郎	豊丘村駐在
		カラマツ その他 6~15年	面積 10ha 材積 500m <sup>3</sup>	6.20	A g. 有賀 宏	
小県郡東部町		カラマツ 7~9年	面積 10ha 本数 21千本	6.30	上田市	激害 2ha, 中害 5ha, 微害 13ha
伊那市		カラマツ 5~15年	面積 20ha 本数 70千本	6.15	上伊那地方事務所 小林 弘	
佐久市		カラマツ 1~30年	面積 200ha 本数 300千本	6.18	A g. 北佐久地方事務所 浦野 守治 遊橋 洪基	
駒ヶ根市		カラマツ 2~15年	面積 150ha 本数 4,500千本	6.26	駒ヶ根市役所 金子 貞吉	

○ セグロシヤチホコ

熊本	上益城郡清和村	ポプラ 3年	面積 0.75ha 本数 300本	7.4	上益城地方事務所 村上 昭寛
----	---------	-----------	----------------------	-----	-------------------

○ クスサン

青森	上北郡天間林村	クリ 5~10年	面積 1ha 本数 300本	6.17	七戸林務出張所 A g. 中野渡忠雄
		クリ 21~40年	面積 7.0ha 本数 10千本	6.28	西根町平館支所 A g. 高橋 昭三
岩手	下閉伊郡川井村	クリ, ウルミ	—	6.6	川井村役場 A g. 広瀬 功
		クリ 10年	面積 0.10ha 本数 30本	7.6	花山森林区
宮城	栗原郡花山村	クリ 5~40年	面積 310ha 本数 6千本	6.21~ 6.30	A g. 鎌田 一男 高橋 春雄 中島 邦治
		クリ 10~25年	面積 1.0ha 本数 300本	7.3	北村山地方事務所 A g. 松浦 彦太郎
山形	最上郡金山町 大蔵村	クリ 5~20年	面積 3ha 本数 800本	7.3	北村山地方事務所 A g. 多田 司郎
		クリ, ウルミ 3~25年	面積 5ha 本数 2千本	7.2	北村山地方事務所 A g. 鈴木 義昭
福島	南会津郡館岩村	クリ 5~40年	面積 50ha	6.23	田島林業事務所 外島 伝
新潟	岩船郡粟島浦村	イタヤ, エノキ 20~70年	面積 4ha 本数 200本	6.25	粟島浦村 磯部倉之助
静岡	榛原郡本川根町	クス, クリ 45年	本数 20本 材積 5m <sup>3</sup>	6.25	本川根町 A g. 長島 松郎
兵庫	美方郡浜坂町	クリ 5~40年	本数 2千本	6.3	浜坂町 谷岡 友親
岡山	御津郡御津町	クリ 5年	面積 0.02ha 本数 5本	6.6	岡山農林事務所 A g. 酒本 裕士
		クリ 5年	本数 5本	6.12	勝山農林事務所 伊藤 博

○ ヒラタキクイムシ

岡山	倉敷市	クヌギ, ナラ (椎 茸原木)	本数 200本	5.10	倉敷農林事務所 古山 六男
----	-----	-----------------------	---------	------	------------------

## 森林防疫ニュース

## ○ スギハムシ

発生 の 場所	被害 程度	樹 種 林 齢	被 害 数 量	発見 月 日	情報提供者氏名	摘 要
宮 城 本吉郡唐桑町		ス ギ	本数 445千本	5.4	唐桑担当区	
静 岡 田方郡戸田村		クロマツ	面積 10ha	7.6	土肥林業吏員 加藤 公男 A.G. 派出所	
三 重 上野市		アカマツ	面積 20ha	6.27	上野林業事務所 片山 一豊	
		クロマツ	本数 50千本		上野林業事務所 城本 延夫	
		2～50年		6.27～	久居林業事務所	
一志郡嬉野町, 白山町		スギ, ヒ ノキ, ク ロマツ	面積 405.0ha 本数 1,300千本 材積 27,000m <sup>3</sup>	6.27～ 7.10	世古 寛	
大 阪 枚方市		1～30年 アカマツ	面積 5ha	7.3	府, 林務課	
		クロマツ	本数 23千本			
		5～7年 アカマツ	面積 20ha	7.2	〃	
北河内郡交野町		クロマツ	本数 100千本			
兵 庫 大阪府姫路署 (姫路市)		3～7年 クロマツ	面積 0.3ha 本数 1千本	7.14	姫路第2担当区 寺尾 治雄	
和歌山 那賀郡岩出町		7年 アカマツ	面積 392.7ha	7.2	那賀農林事務所 杉田富美雄	
		クロマツ	本数 201千本			
		4～6年 アカマツ	面積 1.0ha	6.25	倉吉地方農林振興局	
鳥 取 倉吉市		5～10年	本数 3千本		北村 幸男	
		西伯郡会見町	面積 115ha	7.10	米子市道美町4の159 林 正夫	
岡 山 大阪府岡山署 (和気郡)		1～5年 クロマツ	面積 402千本	7.11	裳掛担当区	
広 島 安芸郡安芸町, 瀬野川町, 府中町		5～7年 アカマツ	面積 230ha	7.5～	高橋博三, 原田武夫 石田未次郎	
		ス ギ	本数 70千本	7.9		
山 口 山口市		3～15年 ス ギ	面積 0.6ha 本数 1.5千本	7.7	山口市駐在 A.G.	
		5年 アカマツ	面積 0.3ha	7.16	大内町役場 小林 正作	
		5～6年 アカマツ	本数 200本		山本 賢治	
		美禰郡秋芳町	面積 10ha	7.10	秋芳町 篠田 芳夫	
		3年 ス ギ	本数 45千本	6.25	基山町 天本 和来	
佐 賀 三養基郡基山町		7年 アカマツ	面積 0.45ha			
長 崎 南高来郡有明町		4～10年	面積 8ha 本数 30千本	7.6	諫早市 総合農林センター	
		北高来郡高来町	面積 10ha	7.7	〃	
		10年 アカマツ	面積 1.5ha	7.12	蒲江町 望月 庄七	
大 分 南海部郡蒲江町		クロマツ	本数 1.5千本			
宮 崎 西都市		4～5年 スギ, ア カマツ	面積 2.0ha 本数 6千本	6.15	三財駐在 A.G.	
		2～3年 ス ギ	面積 6.5ha	5.8～	西米良村	
児湯郡西米良村		ス ヒ ノ キ	面積 26千本	5.28	A.G. 日高 美義	
		1～3年 アカマツ	面積 90ha	6.30	飯野町森林組合	
西諸県郡加久藤 町, 真幸町		クロマツ	本数 330千本		栗野 信男	
		ス ギ				
		3～7年 ス ヒ ノ キ	面積 61.2ha 本数 236千本	6.26	北諸県農林事務所 齋藤 近 田上 勲 三股町 内村 親行	
		1～25年 クロマツ				

## ○ マツキボシゾウムシ

青 森 三戸郡名川町		アカマツ 3年(苗畑)	面積 0.05ha 本数 13千本	6.28	三戸林務出張所 松橋 文男	
------------	--	----------------	----------------------	------	------------------	--



森林防疫ニュース

発生 の 場所	被害 程度	樹 林 種 類	被 害 数 量	発 見 月 日	情 報 提 供 者 氏 名	摘 要
福 井 勝山市		アカマツ 105 年	面積 1.10ha 本数 219本 材積 200m <sup>3</sup>	6.18	勝山市 A.G. 水上 喜六	
○ マツアナアキゾウムシ						
茨 城 東京局高萩署 (多賀郡十王町)		ス ギ 2 ~ 3年	面積 5.37ha 本数 16千本	5.15	高原担当区 河野 明雄	
○ キイロコキクイムシ						
宮 崎 熊本局小林署 (西諸県郡須木村)		クロマツ 49~130年	面積 1.01ha 本数 10本 材積 23m <sup>3</sup>	6.27	奈佐木担当区 寺下 清登	
○ ハンノキキクイムシ						
岡 山 英田郡作東町		ク リ 3 ~ 4年	面積 0.2ha 本数 5本	5.21	作東町 A.G. 安東 重幸	
○ ヒバノキクイムシ						
岐 阜 名古屋局荘川署 (大野郡荘川村)		ス ギ 13 年	面積 0.05ha 本数 100本	6.26	新洲担当区 川瀬 健一	発生虫態：卵及び成虫 密度：小
岡 山 御津郡加茂川町		ヒ ノ キ 10 年	—	6.19	加茂川町 A.G. 可児 義明	
○ マツノキクイムシ						
山 梨 南都留郡道志村		アカマツ 30~80年	面積 15ha 本数 70本	5.10	道志村 小林 多禄	
三 重 度会郡二見町		アカマツ クロマツ 10~60年	面積 2.00ha 本数 200本 材積 50m <sup>3</sup>	6.29	伊勢林業事務所 林 徳治	
宮 崎 熊本局小林署 (西諸県郡須木村)		アカマツ クロマツ 34~51年	面積 8ha 本数 86本 材積 78m <sup>3</sup>	5.22~ 6.20	奈佐木担当区 寺下 清登	
○ オオスジコガネ						
三 重 志摩郡志摩町		ス ギ 15 年	面積 0.12ha 本数 50本	6.27	阿児町役場 A.G. 東 利雄	
○ ヒメコガネ						
鹿 児 島 熊毛郡中種子町		クロマツ 1 ~ 5年	面積 3.0ha 本数 30千本	7.5	熊毛支所 前田 宗倫	
○ ヒメビロウドコガネ						
長 野 長野局福島署 (西筑摩郡開田村)		カラマツ	—	6.26	開田村 山崎 則雄	発生虫態：成虫, 密度：中
○ 松くい虫						
岩 手 釜石市		アカマツ 25 年	面積 150ha 本数 60本	6.13	釜石市役所 竹内 政生	
岐 阜 加茂郡川辺町 七宗村		アカマツ 35~50年	面積 8ha 本数 6.3千本 材積 400m <sup>3</sup>	7.2	七宗村役場 A.G. 酒向 昇	
静 岡 賀茂郡西伊豆町		クロマツ 150 年	面積 0.02ha 本数 24本 材積 6.95m <sup>3</sup>	7.1	下田林業事務所 藤田 清	
庵原郡蒲原町		クロマツ 30~80年	面積 1.5ha 本数 134本 材積 43.6m <sup>3</sup>	6.15	由比林業吏員派出所 松本 彦作	
愛 知 豊橋市		アカマツ クロマツ 30~80年	面積 26ha 本数 4千本	6.25~ 6.30	豊橋市役所 山田 哲夫	
三 重 尾鷲市		クロマツ 37 年	面積 0.4ha 本数 0.5千本 材積 72m <sup>3</sup>	6.3	尾鷲森林組合 小倉 祐平	

森林防疫ニュース

発生 の 場所		被害程度	樹 種 林 齢	被 害 数 量	発見 月 日	情報提供者氏名	摘 要
京 都	志摩郡浜島町 阿児町		クロマツ アカマツ 20~80年	本数 1.7千本 材積 180m <sup>3</sup>	6.28~ 7.2	阿児町役場 A g. 東 利雄	
	乙訓郡向日町		クロマツ 40~60年	本数 50本 材積 30m <sup>3</sup>	6.29	向日町	
福 岡	若松市		クロマツ 45 年	本数 10本 材積 18.85m <sup>3</sup>	6.25	三浦 技師 八幡農林事務所 井田 猛夫	
	久留米市		アカマツ クロマツ 50~100年	本数 954本 材積 800.8m <sup>3</sup>	4.1	甘木農林事務所 林 務 課	
	朝倉郡杷木町		アカマツ クロマツ 40~100年	本数 69本 材積 200m <sup>3</sup>	6.20	〃	
	鞍手郡若宮町		クロマツ 50 年	本数 300本 材積 80m <sup>3</sup>	5.21	若宮町	
	山門郡瀬高町		クロマツ 30 年	本数 200本 材積 18m <sup>3</sup>	6.28	森田 美芳 筑後農林事務所 岡 照美	
佐 賀	三養基郡基山町		クロマツ 10 年	本数 17本 材積 38m <sup>3</sup>	5.28	基山町役場	
宮 崎	西都市		クロマツ 35 年	本数 3本 材積 1m <sup>3</sup>	6.26	天本 和来 西都市	
	国分市		クロマツ —	本数 170本 材積 45m <sup>3</sup>	4 月	弓削 和則 小田 友行	

○ カラマツアカハバチ

福 島	前橋局猪苗代署 (耶麻郡猪苗代町)		カラマツ 52 年	面積 18ha 本数 4千本	6.29	中之沢担当区 平野 良雄	
-----	----------------------	--	--------------	-------------------	------	-----------------	--

○ マツノキハバチ

岩 手	釜石市		アカマツ 2~10年	面積 85.3ha 本数 30千本	5.7~ 5.21	県林政課 円子 信幸	
	久慈市		アカマツ 8 年	面積 1.0ha 本数 1千本	6.2	〃	
	大船渡市		アカマツ 1~8年	面積 100ha 本数 350千本	5.31	〃	
	胆沢郡前沢町		アカマツ 5 年	面積 1ha 本数 4千本	5.18	〃	
	西磐井郡花泉町		アカマツ 4~5年	面積 1ha 本数 3千本	5.20	〃	
	上閉伊郡大槌町		アカマツ 2~10年	面積 150ha —	5.20	〃	
	東磐井郡室根村		アカマツ 3~8年	— —	5.31	室根村役場駐在 A g. 千葉孝一郎	BHC粉剤を使用
	一ノ関市		アカマツ 1~20年	面積 100ha —	5.7	一ノ関農林事務所 八木 数夫	北上川を中心に全域に発生
	青森局岩泉署 (下閉伊郡 岩泉町)		ヨウロツバ アカマツ オオシユウ アカマツ 3 年	面積 0.08ha 本数 340本	6.18	岩泉担当区 和田 和夫	外国樹種植栽試験地に発生
	青森局川井署 (下閉伊郡川井村)		アカマツ 10~15年	面積 1ha —	6.13	松草担当区事務所 佐藤 栄	
宮 城	青森局気仙沼署 (気仙沼市)		アカマツ 5~15年	面積 51ha 本数 17千本	5.29	気仙沼市	
	青森局石巻署 (牡鹿郡牡鹿町) 本吉郡歌津町		アカマツ I 令級 アカマツ 5~10年	面積 1.0ha 本数 5千本 面積 50ha	6.25	大原担当区 外川 良一	
京 都	北桑田郡美山町		アカマツ 2~5年	面積 70ha 本数 150千本	6.6	美山町	猪股 久雄
高 知	幡多郡大正町		アカマツ 2~5年	面積 全 域	4.10	十和村 A g. 仲江和三郎	
	十和村, 西土佐村		—	—	—	林 重博	

森林防疫ニュース

○ クリタマバチ

発生場所	被害程度	樹林種齢	被害数量	発見月日	情報提供者氏名	摘要
岩手 一ノ関市		ク リ	面積 200ha	5.7	県林政課 円子 信幸 八木 数夫	
水沢市		ク リ	面積 500ha	5.16	〃	
西磐井郡平泉町		ク リ	—	6.14	一ノ関市	平泉町長島民有林の大部分に発生
東磐井郡室根村		ク リ	面積 100ha	5.31	室根村 阿部 秀吉 A g. 千葉孝一郎	面積, 材積, 本数把握困難
下閉伊郡田野畑村		ク リ	面積 300ha	6.10	普代村第69森林区 A g. 亀井 正巳	
青森局花巻署 (和賀郡東和町)		ク リ	本数 2,070本 材積 150m <sup>3</sup>	6.16	土沢担当区 高橋 秀治	
宮城 本吉郡唐桑町		ク リ	本数 323千本 材積 46,000m <sup>3</sup>	6.2	唐桑担当区 加藤 公男	
栗原郡花山村		ク リ	面積 0.3ha 本数 120本	6.5	花山村 鎌田 一男	
遠田郡田尻町 涌谷町		ク リ	面積 520ha 材積 1,300m <sup>3</sup>	4.25	古川農林事務所 大槻 庄七	
秋田 仙北郡千畑村		ク リ	面積 50ha 本数 3千本	6.27	仙北林業事務所 田口 辰郎	
福島 南会津郡館岩村		ク リ	面積 30ha	6.23	田島林業事務所 外島 伝	
岡山 御津郡御津町		ク リ	面積 0.02ha 本数 6本	6.6	岡山農林事務所 A g. 酒本 裕士	
鹿児島 国分市		ク リ	面積 0.10ha 本数 100本	4月	国分市 小田 友行	
始良郡蒲生町		ク リ	面積 800ha 本数 160千本	5.15	蒲生町役場 迫間 栄	

○ スギタマバエ

宮城 栗原郡花山村		ス ギ	面積 2ha 本数 6千本	36.11.2	花山村 鎌田 一男	
熊本 八代郡泉村		ス ギ	面積 50ha 本数 20千本	4.5	泉村 清水 貞雄	
上益城郡清和村		ス ギ	面積 1ha 本数 2.7千本	7.9	上益城事務所 村上 昭寛	
宮崎 串間市		ス ギ	面積 490ha 本数 562千本	7.9	串間市 田代 緑	
北諸県郡高崎町		ス ギ	面積 492ha	6.23~	第29森林区 A g. 内村 親行	
高城町, 三股町 山之口村		ス ギ	本数 1,481千本	7.11	高崎町 鶴田 栄進	
東臼杵郡西郷村		ス ギ	面積 1.400ha 本数 1,748千本	6.30	西郷村 A g. 岩沢 清人	

○ マツノシントメタマバエ

岡山 御津郡建部町		アカマツ	本数 1本	6.19	—	
		年			—	

○ スギノハダニ

岩手 釜石市		ス ギ	面積 30ha	6.28	県 盛岡市 円子 信幸 小沢 久	釜石より唐舟に至る沿岸地区の造林地に発生
気仙郡三陸村		ス ギ	面積 30ha		県 第12森林区 円子 信幸 高橋 清	

## 森林防疫 ニ ュ ー ス

発生 の 場所	被害 程度	樹 種 林 齢	被 害 数 量	発見 月 日	情報提供者氏名	摘 要
宮 城 仙台市		ス ギ 3～10年	面積 3ha 本数 9千本	5.26	仙台森林区 A g. 大平 智里	
	角田市	ス ギ 2～15年	面積 50ha	6.10	角田市 角田森林組合	
	登米郡豊里町 登米町	ス ギ 2～10年	面積 47ha 本数 141千本	6.15	登米町 西条 正志	
	遠田郡涌谷町	ス ギ 5～15年	面積 5ha 本数 15千本	6.25	古川農林事務所 大槻 庄七	
	栗原郡花山村	ス ギ 4～8年	面積 30ha 本数 90千本	6.18	花山村 鎌田 一男	
福 島 相馬郡新地村		ス ギ 6年	面積 0.1ha 本数 60本	7.10	原町林業事務所 A g. 池田 稔	
	東白川郡棚倉町	ス ギ 1～8年	面積 15ha 本数 40千本	7.10	棚倉林業事務所 杉浦 四郎	
次 城 久慈郡太子町		ス ギ 10～12年	面積 10.3ha 本数 37千本	7.7	県北振興事務所 A g. 大金 寛一	
栃 木 芳賀郡茂木町		ス ギ 2～3年	面積 3ha 本数 12千本	7.5	茂木町 小崎 耕作	
新 潟 中浦原郡村松町		ス ギ 3～4年	面積 2.5ha 本数 7.5千本	7.7	村松町 A g. 渡辺 鉄男	
	佐渡郡新穂村	ス ギ 6年	面積 20ha 本数 60千本	6.20	佐渡林業事務所 白井 昭平	
石 川 鳳至郡穴水町		ス ギ 4～7年	面積 15ha 本数 38千本	5.29	倉田 信	
福 井 勝山市		ス ギ 3～10年	面積 50ha —	6.20	勝山市 水上 喜六	
岐 阜 瑞浪市		ス ギ 6年	面積 1.7ha 本数 5.1千本	5.28	瑞浪担当区 西本 一重	
	加茂郡八百津町 七宗村	ス ギ 2～15年	面積 455.8ha 本数 692千本	7.3	瑞浪担当区 七宗村 A g. 酒向 一昇	
	益田郡金山町	ス ギ 5年	面積 10ha 本数 30千本	6.28	県林政課 S. P. 二村 範	
	武儀郡武儀村	ス ギ 5年	面積 5.0ha 本数 14千本	5.8	武儀村 林 柁	
静 岡 天竜市		ス ギ 3～5年	面積 10ha 本数 60千本	5.15	天竜林業事務所 A g. 川合 光治	
	東京局掛川署 (榛原郡金谷町)	ス ギ 7年	面積 2.72ha 本数 3.7千本	7.10	掛川署 高田昭一郎	
愛 知 岡崎市		ス ギ 3年	面積 1.1ha 本数 3.4千本	6.16	西三河事務所 九沢 彪郎	
	額田郡額田町	ス ギ 2～5年	面積 23ha 本数 92千本	6.20	高崎森林組合 長 権田 理憲	
三 重 尾鷲市		ス ギ 5～7年	面積 6.9ha 本数 36.5千本	6.10	尾鷲森林組合 小倉 祐平	
	伊勢市	ス ギ 2～10年	面積 15ha 本数 60千本	6.8	伊勢林業事務所 林 徳治	
	度会郡南島町, 紀勢町, 大宮町 度会村	ス ギ 2～7年	面積 31.3ha 本数 121千本	6.2～ 7.2	紀勢町 奥野 栄一 金沢 啓三 大河内淳次 田中 幹二	
	一志郡嬉野町, 白山町, 一志町 美杉村	ス ギ 2～9年	面積 155ha 本数 740千本	6.28～ 7.10	久居林業事務所 世古 寛 前田盛善	
	飯南郡飯南町	ス ギ 3年	面積 0.2ha 本数 1.2千本	6.18	飯南町 A g. 吉田伊三郎	
	北牟婁郡海山町	ス ギ 10年	面積 1.0ha 本数 2.6千本	5.30	海山町森林組合	

## 森林防疫ニユース

発生 の 場所	被害 程度	樹 種 林 齢	被 害 数 量	発見 月 日	情報提供者氏名	摘 要
滋 賀 伊香郡木之本町 西浅井村		ス ギ 3 ~ 8年	面積 22.8ha 本数 72千本	7.1 ~ 7.7	長浜事務所 松本 欣也 木之本事務所 国友 喜造	
高島郡マキノ町 今津町		ス ギ 5 ~ 8年	面積 75ha 本数 225千本	6 月	今津県事務所	
蒲生郡日野町		ス ギ 5 年	面積 2ha 本数 7.8千本	6.21	日野町 A g. 堀川弥太郎	
京 都 宇治市		ス ギ 3 ~ 9年	面積 60ha 本数 21千本	6.5	宇治市森林組合	
京都市		ス ギ 1 ~ 5年	面積 30ha 本数 120千本	6.11	京都林務出張所 橋詰 技師	
中郡峰山町, 大 宮町		ス ギ 10 年	面積 20ha —	6.4	峰山事務所 藤原 初雄	
乙訓郡長岡町		ス ギ 1 ~ 3年	面積 10ha 本数 30千本	6.29	向日町事務所 三浦 技師	
相楽郡和束町 南山城村		ス ギ 3 ~ 6年	面積 35ha 本数 100千本	5.25	木津事務所 木村 勘一	
竹野郡弥栄町 丹後町, 網野町		ス ギ 10 ~ 15年	面積 114ha —	6.1	峰山事務所 藤原 初雄	
熊野郡久美浜町		ス ギ 6 年	面積 60ha —	6.5	"	
北桑田郡美山町 京北町		ス ギ 3 ~ 15年	面積 150ha 本数 330千本	6.28	京北事務所 伊藤 武 美山町 仲江和二郎	
大 阪 柏原市		ス ギ 3 ~ 6年	面積 15ha 本数 75千本	6.18	大阪府林務課	
大東市		ス ギ 3 ~ 8年	面積 15ha 本数 75千本	6.12	"	
南河内郡千早 赤坂村		ス ギ 3 ~ 6年	面積 8ha 本数 48千本	6.19	"	
鳥 取 東伯郡関金町		ス ギ 4 ~ 5年	面積 1ha 本数 2.9千本	6.13	倉吉地方農林振興局 A g. 永田 清	
西伯郡西伯町		ス ギ 5 年	面積 0.5ha 本数 1.5千本	7.5	米子地方農林振興局 林 正夫	
気高郡青谷町		ス ギ 5 ~ 6年	面積 0.3ha 本数 0.9千本	7.8	鳥取地方農林振興局 A g. 山崎 保治	
岡 山 御津郡建部町 加茂川町		ス ギ 4 ~ 5年	面積 2.5ha 本数 3.9千本	6.5 ~ 6.22	加茂川町 草地 己郎 建部町 西村 定巳	
英田郡作東町		ス ギ 7 ~ 11年	面積 45ha 本数 12.2千本	6.20	作東町 安東 重幸	
和気郡吉永町		ス ギ 4 年	面積 4.0ha 本数 1千本	6.17	和気農林事務所 A g. 田淵 隆	
真庭郡勝山町		ス ギ 10 年	面積 0.2ha 本数 0.5千本	6.26	県, 林政課 丸山 晴彦	
山 口 山口市		ス ギ 3 年	面積 0.3ha 本数 700本	6.27	A g. 小林 正作	
徳 島 高知郡徳島署 (海部郡日和佐町)		ス ギ 6 年	面積 4.2ha 本数 9.5千本	7.4	日和佐担当区 遠山 和夫	
麻植郡山川町		ス ギ 2 ~ 5年	面積 5.0ha 本数 15千本	7.1	県, 林業経営課 中野 子	
名西郡神山町		ス ギ 3 ~ 7年	面積 50ha 本数 150千本	7.5	神山町 細井 勇	
高 知 安芸郡安田町		ス ギ 3 ~ 5年	面積 7ha —	7.5	安芸林業事務所 西岡 賢祐	
福 岡 甘木市		ス ギ 6 年	面積 0.2ha 本数 500本	6.30	甘木農林事務所	
八女郡黒木町		ス ギ	面積 10ha	6.25	筑後農林事務所	

森林防疫ニュース

発生の場所		被害程度	樹種 林齢	被害数量	発見 月日	情報提供者氏名	摘要	
佐賀	広川町		1～5年	本数 30千本	6.25	岡 照美 鳥栖市役所		
	鳥栖市		スギ 3～6年	面積 5ha 本数 17千本				
	鹿島市		スギ 2～15年	面積 7ha 本数 25千本				
熊本	西松浦郡西有田村		スギ 5年	面積 0.5ha 本数 2千本	6.25	西有田村長		
	藤津郡太良町 嬉野町, 塩田町		スギ 1～15年	面積 25ha 本数 92千本	6.30	太良町 宮崎 豊吉 嬉野町 浜村 国助 塩田町 行武 政雄		
	三養基郡基山町		スギ 4年	面積 1.98ha —	6.28	基山町役場		
	人吉市		スギ 4～8年	面積 20ha 本数 60千本	6.9	球摩事務所		
	菊池市		スギ 3～6年	面積 135ha 本数 415千本	5.30～ 7.3	Ag. 中川学 Ag. 兼田郁男 A g. 中川 昭雄		
	八代郡泉村		スギ 2～8年	面積 10ha 本数 40千本	6月	泉村	清水 貞雄	
	宮崎	延岡市		スギ 2～10年	面積 38ha 本数 89千本	7.10	第3森林区 A g.	伊集院健三
	串間市		スギ 2～12年	面積 65ha 本数 71千本	7.9	串間市	田代 緑	
	宮崎市		スギ 3～10年	面積 50ha 本数 140千本	6.15	県, 林政課	中村喜久弥	
	東臼杵郡門川町 東郷村, 西郷村 北郷村, 北浦村		スギ 1～15年	面積 128.78ha 本数 232千本	6.6～ 6.30	岩沢 清人 工藤 米吉 森 文雄 園師 睦 小橋 恵 乗秀 弘		
鹿児島	北諸県郡三股町 高城町, 山之口村		スギ 1～10年	面積 97ha 本数 330千本	7.2	第29森林区 A g.	内村 親行	
	熊本局高岡署 (東諸県郡高岡町)		スギ 8年	面積 4.0ha 本数 12千本	6.20		伊星 祐憲	
	国分市		スギ —	面積 50ha 本数 150千本	4月	国分市	小田 友行	

○ ハイロアミメハマキ ○ アブラムシ科の1種

北海道	帯広局上士幌署 (河東郡上士幌町)		カラマツ 2～4年	面積 174.3ha 本数 84.5千本	6.22	上士幌営林署	
-----	----------------------	--	--------------	-------------------------	------	--------	--

○ マツカレハ ○ マツツマアカシムシ

青森	上北郡六ヶ所村		クロマツ 5～7年	面積 25ha 本数 87.5千本	6.13	野辺地林務出張所 工藤留太郎	
	北津軽郡市浦村		クロマツ 5～18年	面積 24.07ha 本数 173.8千本	7.2	五所ヶ原林務出張所 A g. 今 清	

○ マツノシンマダラメイガ ○ マツツマアカシムシ

青森	青森局鱒ヶ沢署 (西津軽郡, 木造町, 車力村)		クロマツ 3～31年	面積 224.13ha 本数 931千本	6.3	車力担当区 木造町 及川 隆視 大内 昭雄	
----	-----------------------------	--	---------------	-------------------------	-----	-----------------------------	--

○ マイマイガ ○ ノンネマイマイ ○ ツガカレハ

発生の場所		被害程度	樹種 林齢	被害数量	発見 月日	情報提供者氏名	摘要
山形	西村山郡朝日町		カラマツ ナラ, クリ 1～2年	面積 50ha 材積 1,000m <sup>3</sup>	5.11	西村山地方事務所 A g. 白田金次郎	

森 林 防 疫 ニ ュ ー ス

○ マツカレハ ○ 松くい虫

東 京	神津島郡神津島村	クロマツ 15~20年	本数 600本	5 月	大島支庁 浜谷 米次
-----	----------	----------------	------------	-----	---------------

○ マツノキクイムシ ○ マツキボシゾウムシ

福 井	大阪局敦賀署 (敦賀市)	アカマツ 50~173年	本数 25本 材積 9.57m <sup>3</sup>	5.14	敦賀署
-----	-----------------	-----------------	---------------------------------------	------	-----

○ ハイイロアミメハマキ ○ カラマツヒメハマキ

長 野	長野局諏訪署 (諏訪郡下諏訪町)	カラマツ 35 年	面積 15ha 本数 30千本	6.26	下諏訪担当区 折橋 衛
-----	---------------------	--------------	--------------------------	------	----------------

○ キイロコキクイムシ ○ マツノキクイムシ

山 口	豊浦郡豊浦町	アカマツ クロマツ 25~100年	本数 300本 材積 85m <sup>3</sup>	6.22	豊浦町役場 A g. 堀 知到
-----	--------	-------------------------	--------------------------------------	------	-----------------------

○ キイロコキクイムシ ○ マツノコキクイムシ

愛 媛	松山市	クロマツ 50~70年	本数 50本 材積 50m <sup>3</sup>	3 月	県, 林政課 門尾 勝郎
-----	-----	----------------	-------------------------------------	-----	-----------------

○ スギカミキリ ○ ヒメスギカミキリ

高 知	長岡郡大豊村	スギ 19 年	本数 20本 材積 1.5m <sup>3</sup>	4.16	豊永森林区 平石 元重
-----	--------	------------	--------------------------------------	------	----------------

○ スギノハダニ ○ スギハムシ

福 岡	久留米市	スギ 5 年	面積 5.0ha 本数 17千本	5.30	甘木農林事務所
-----	------	-----------	---------------------------	------	---------

獣 害

○ モグラ

岡 山	御津郡加茂川町	スギ 2年(苗畑)	本数 25本	6.19	加茂川町 A g. 可児 義明
-----	---------	--------------	-----------	------	-----------------------

○ ノネズミ

青 森	青森局市浦署 (北津軽郡市浦村)	クロマツ —	面積 22.10ha 本数 33千本	4 月	市浦村 農林事務所 下長 富男
宮 城	青森局古川署 (玉造郡鳴子町)	スギ 7 年	面積 1.0ha 本数 8千本	6.22	古川営林署長
群 馬	前橋局中之条署 (吾妻郡高山村)	アカマツ 3 年	面積 1.4ha 本数 8.4千本	6.28	中之条営林署長 平山 三男
静 岡	駿東郡小山町	ヒノキ 6 年	面積 10ha 本数 30千本	7.8	沼津林業事務所 小見山 浄
	伊東市	ヒノキ 3 年	面積 6.39ha 本数 21千本	6.25	沼津林業事務所 松田 吉平
徳 島	名石郡神山町	スギ 3~5年	面積 1ha 本数 1.5千本	6.20	神山町 長野 覚一

○ ノウサギ

発 生 の 場 所	被害 程度	樹 種 林 齢	被 害 数 量	発見 月日	情 報 提 供 者 氏 名	摘 要
京 都		スギ 2~3年	面積 4.8ha 本数 4千本	6.27	美山町 仲江和三郎	
岡 山		— 2 年	面積 1.5ha 本数 4千本	6.24	岡山農林事務所 A g. 酒本 裕士	

○ シカ ○ カモンカ

奈 良	吉野郡上北山村	スギ ヒノキ 2~4年	面積 70ha 本数 350千本	5.24	第23森林区 A g. 奥村 忠四
-----	---------	-------------------	---------------------------	------	-------------------------